

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	一般教養 I	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1 年次	
開講区分	前期	
科目区分	必修	
授業方法	演習	
単位数	1 単位	
授業回数	1 5 回	
授業概要	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ	
授業の進め方	問題演習による試験対策	
達成目標	一般教養として社会で求められる漢字能力を身につけることを目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	訓読み・送り仮名①
	2	訓読み・送り仮名②
	3	熟語①
	4	熟語②
	5	熟語③
	6	異字同訓・同音異義
	7	誤字訂正①
	8	誤字訂正②・類義語
	9	反対語
	10	漢字の意味・使い方①
	11	漢字の意味・使い方②
	12	項目別模擬試験①
	13	項目別模擬試験②
	14	直前模擬試験①
	15	直前模擬試験②
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における科目解答状況	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	簿記入門 I	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1 年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
単位数	1 単位	
授業回数	1 5 回	
授業概要	株式会社における複式簿記の基本原則を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	簿記の基本原則の理解する	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	簿記の目的（基礎編）
	2	簿記一巡（基礎編）
	3	商品売買 I（基礎編）
	4	商品売買 II（基礎編）
	5	決算整理（基礎編）
	6	精算表（基礎編）
	7	現金および預金（基礎編）
	8	手形（基礎編）
	9	有形固定資産の決算整理（基礎編）
	10	その他の債権および債務（基礎編）
	11	その他の勘定および訂正仕訳（基礎編）
	12	有形固定資産の決算整理（基礎編）
	13	費用および収益の決算整理（基礎編）
	14	株式会社の純資産（基礎編）
	15	英米式決算法（基礎編）
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ビジネス教養 I	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	電卓技能の向上を目的とする	
教科書	検定対策テキストおよび問題集	
特記		
授業計画	1	電卓の使い方、端数の取り扱い
	2	電卓演習①
	3	電卓演習②
	4	電卓演習③
	5	電卓演習④
	6	電卓演習⑤
	7	電卓演習⑥
	8	電卓演習⑦
	9	電卓演習⑧
	10	電卓演習⑨
	11	電卓演習⑩
	12	電卓演習⑪
	13	電卓演習⑫
	14	電卓演習⑬
	15	効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	キャリアデザイン I	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と演習	
達成目標	面接の入退室および自己PRができるようになる	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	面接の基本
	2	入退室の仕方
	3	スーツの着こなし、身嗜み確認
	4	自己PR作成①
	5	自己PR作成②
	6	自己PR作成③
	7	会計事務所・企業研究①
	8	会計事務所・企業研究②
	9	会計事務所・企業研究③
	10	会計事務所・企業研究④
	11	会計事務所・企業研究⑤
	12	模擬面接練習①
	13	模擬面接練習②
	14	模擬面接練習③
	15	効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	キャリアデザインⅡ	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの学習	
授業の進め方	テキストによる講義により、基本的な手法を学ぶ	
達成目標	会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの習得	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	就職活動の進め方①
	2	就職活動の進め方②
	3	自己分析①
	4	自己分析②
	5	会社選びの基礎知識
	6	企業研究①
	7	企業研究②
	8	応募書類の作成方法①
	9	応募書類の作成方法②
	10	企業へのアクセス①
	11	企業へのアクセス②
	12	企業へのアクセス③
	13	企業へのアクセス④
	14	企業へのアクセス⑤
	15	効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	Excel基礎	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	30回	
授業概要	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用方法を習得する	
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る	
達成目標	MOS Excelレベルの操作を習得する	
教科書	外販テキスト	
特記		
授業計画	1	ワークシートやブックの作成と管理①
	2	ワークシートやブックの作成と管理②
	3	セルやセル範囲のデータの管理①
	4	セルやセル範囲のデータの管理②
	5	テーブルの作成①
	6	テーブルの作成②
	7	関数を使用してのデータ集計①
	8	関数を使用してのデータ集計②
	9	関数を使用しての条件付き計算①
	10	関数を使用しての条件付き計算②
	11	関数を使用した文字列の整形や変更①
	12	関数を使用した文字列の整形や変更②
	13	グラフの作成①
	14	グラフの作成②
	15	グラフの書式設定①
	16	グラフの書式設定②
	17	オブジェクトの挿入や書式設定①
	18	オブジェクトの挿入や書式設定②
	19	模擬テスト①
	20	模擬テスト②
	21	模擬テスト③
	22	模擬テスト④
	23	模擬テスト⑤
	24	模擬テスト⑥
	25	模擬テスト⑦
	26	模擬テスト⑧
	27	模擬テスト⑨
	28	模擬テスト⑩
	29	模擬テスト⑪
	30	模擬テスト⑫
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬テスト100% 科目習熟度を測定するテスト	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	2級商業簿記基礎 I	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
単位数	3単位	
授業回数	45回	
授業概要	基本的な財務報告書類の作成方法・株式会社社会計の基礎を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	決算整理を中心とした会計処理、勘定形式の報告書類の理解、企業取引に対する会計処理の理解を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	総論（基礎編）
	2	収益と費用①（基礎編）
	3	収益と費用②（基礎編）
	4	棚卸資産①（基礎編）
	5	棚卸資産②（基礎編）
	6	現金預金（基礎編）
	7	債権・債務等①（基礎編）
	8	債権・債務等②（基礎編）
	9	有価証券①（基礎編）
	10	有価証券②（基礎編）
	11	有価証券③（基礎編）
	12	固定資産①（基礎編）
	13	固定資産②（基礎編）
	14	固定資産③（基礎編）
	15	固定資産④（基礎編）
	16	固定資産⑤（基礎編）
	17	固定資産⑥（基礎編）
	18	為替換算会計①（基礎編）
	19	為替換算会計②（基礎編）
	20	引当金①（基礎編）
	21	引当金②（基礎編）
	22	法人税等①（基礎編）
	23	法人税等②（基礎編）
	24	法人税等③（基礎編）
	25	法人税等④（基礎編）
	26	株式会社の純資産①（基礎編）
	27	株式会社の純資産②（基礎編）
	28	企業結合①（基礎編）
	29	企業結合②（基礎編）
	30	確認テスト
	31	株主資本等変動計算書①（基礎編）
	32	株主資本等変動計算書②（基礎編）
	33	株主資本等変動計算書③（基礎編）
	34	連結会計①（基礎編）
	35	連結会計②（基礎編）
	36	連結会計③（基礎編）
	37	連結会計④（基礎編）
	38	連結会計⑤（基礎編）
	39	連結会計⑥（基礎編）
	40	連結会計⑦（基礎編）
	41	連結会計⑧（基礎編）
	42	本支店会計①（基礎編）
	43	本支店会計②（基礎編）
	44	本支店会計③（基礎編）
	45	伝票と帳簿（基礎編）
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	2級工業簿記基礎 I	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
単位数	2単位	
授業回数	30回	
授業概要	工企業を前提とする会計処理の基礎を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	伝統的な個別原価計算および総合原価計算を学び、一部、原価計算の基礎についても習熟することを目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	工業簿記の基礎（基礎編）
	2	個別原価計算の手続き（基礎編）
	3	材料費会計（基礎編）
	4	労務費会計（基礎編）
	5	経費会計（基礎編）
	6	製造間接費会計（基礎編）
	7	製造間接費差異の原因別分析（基礎編）
	8	単純個別原価計算Ⅰ（基礎編）
	9	単純個別原価計算Ⅱ（基礎編）
	10	工企業の財務諸表（基礎編）
	11	工業簿記総まとめ①（基礎編）
	12	部門別計算Ⅰ（基礎編）
	13	部門別計算Ⅱ（基礎編）
	14	確認テスト（第1回）
	15	工業簿記総まとめ②（基礎編）
	16	総合原価計算の手続き（基礎編）
	17	単純総合原価計算（基礎編）
	18	減損および仕損（基礎編）
	19	工程別総合原価計算（基礎編）
	20	組別総合原価計算（基礎編）
	21	等級別総合原価計算（基礎編）
	22	標準原価計算Ⅰ（基礎編）
	23	標準原価計算Ⅱ（基礎編）
	24	標準原価計算Ⅲ（基礎編）
	25	工業簿記総まとめ③（基礎編）
	26	CVP分析Ⅰ（基礎編）
	27	CVP分析Ⅱ（基礎編）
	28	直接原価計算（基礎編）
	29	工業簿記総まとめ④（基礎編）
	30	確認テスト（第2回）
成績評価方法 （試験実施方法）	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験	
備考		

授業概要(シラバス)

タイトル	内容			
授業科目	2級簿記総合 I			
実務家教員授業				
学部・学科	情報ビジネス学科			
履修年次	1年次			
開講学期	前期			
科目区分	選択			
授業方法	講義及び演習			
単位数	4単位			
授業回数	60回			
授業概要	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学び、本支店会計、連結会計、原価計算の基礎も学ぶ			
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る			
達成目標	簿記2級レベルの会計知識と計算技術の習得を目的とする			
教科書	オリジナルテキスト			
特記				
授業計画	1	商業簿記総まとめ①(基礎編)	16	商業簿記総まとめ⑯(基礎編)
	2	商業簿記総まとめ②(基礎編)	17	商業簿記総まとめ⑰(基礎編)
	3	商業簿記総まとめ③(基礎編)	18	商業簿記総まとめ⑱(基礎編)
	4	商業簿記総まとめ④(基礎編)	19	商業簿記総まとめ⑲(基礎編)
	5	商業簿記総まとめ⑤(基礎編)	20	商業簿記総まとめ⑳(基礎編)
	6	商業簿記総まとめ⑥(基礎編)	21	工業簿記総まとめ①(基礎編)
	7	商業簿記総まとめ⑦(基礎編)	22	工業簿記総まとめ②(基礎編)
	8	商業簿記総まとめ⑧(基礎編)	23	工業簿記総まとめ③(基礎編)
	9	商業簿記総まとめ⑨(基礎編)	24	工業簿記総まとめ④(基礎編)
	10	商業簿記総まとめ⑩(基礎編)	25	工業簿記総まとめ⑤(基礎編)
	11	商業簿記総まとめ⑪(基礎編)	26	工業簿記総まとめ⑥(基礎編)
	12	商業簿記総まとめ⑫(基礎編)	27	工業簿記総まとめ⑦(基礎編)
	13	商業簿記総まとめ⑬(基礎編)	28	工業簿記総まとめ⑧(基礎編)
	14	商業簿記総まとめ⑭(基礎編)	29	工業簿記総まとめ⑨(基礎編)
	15	商業簿記総まとめ⑮(基礎編)	30	工業簿記総まとめ⑩(基礎編)
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験			
備考				

授業概要(シラバス)

タイトル	内容			
授業科目	2級簿記総合 I			
実務家教員授業				
学部・学科	情報ビジネス学科			
履修年次	1年次			
開講学期	前期			
科目区分	選択			
授業方法	講義及び演習			
単位数	4単位			
授業回数	60回			
授業概要	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学び、本支店会計、連結会計、原価計算の基礎も学ぶ			
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る			
達成目標	簿記2級レベルの会計知識と計算技術の習得を目的とする			
教科書	オリジナルテキスト			
特記				
授業計画	31	工業簿記総まとめ⑪(基礎編)	46	総合問題演習⑥(テスト形式)
	32	工業簿記総まとめ⑫(基礎編)	47	総合問題演習⑦(テスト形式)
	33	工業簿記総まとめ⑬(基礎編)	48	総合問題演習⑧(テスト形式)
	34	工業簿記総まとめ⑭(基礎編)	49	総合問題演習⑨(テスト形式)
	35	工業簿記総まとめ⑮(基礎編)	50	総合問題演習⑩(テスト形式)
	36	工業簿記総まとめ⑯(基礎編)	51	総合問題演習⑪(テスト形式)
	37	工業簿記総まとめ⑰(基礎編)	52	総合問題演習⑫(テスト形式)
	38	工業簿記総まとめ⑱(基礎編)	53	総合問題演習⑬(テスト形式)
	39	工業簿記総まとめ⑲(基礎編)	54	総合問題演習⑭(テスト形式)
	40	工業簿記総まとめ⑳(基礎編)	55	総合問題演習⑮(テスト形式)
	41	総合問題演習①(テスト形式)	56	総合問題演習⑯(テスト形式)
	42	総合問題演習②(テスト形式)	57	総合問題演習⑰(テスト形式)
	43	総合問題演習③(テスト形式)	58	総合問題演習⑱(テスト形式)
	44	総合問題演習④(テスト形式)	59	総合問題演習⑲(テスト形式)
	45	総合問題演習⑤(テスト形式)	60	総合問題演習⑳(テスト形式)
	成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験		
備考				

授業概要(シラバス)

タイトル	内容			
授業科目	1級会計学入門 I			
実務家教員授業				
学部・学科	情報ビジネス学科			
履修年次	1年次			
開講学期	前期			
科目区分	選択			
授業方法	講義			
単位数	3単位			
授業回数	45回			
授業概要	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ			
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る			
達成目標	現行基準の理論体系の理解を目的とする			
教科書	オリジナルテキスト			
特記				
授業計画	1	財務諸表(入門編)	16	退職給付②(入門編)
	2	有価証券(入門編)	17	資産除去債務①(入門編)
	3	デリバティブ取引・ヘッジ会計(入門編)	18	資産除去債務②(入門編)
	4	有形固定資産①(入門編)	19	純資産①(入門編)
	5	有形固定資産②(入門編)	20	純資産②(入門編)
	6	割引現在価値(入門編)	21	純資産③(入門編)
	7	リース取引①(入門編)	22	新株予約権と新株予約権付社債(入門編)
	8	リース取引②(入門編)	23	ストック・オプション①(入門編)
	9	研究開発費とソフトウェア(入門編)	24	ストック・オプション②(入門編)
	10	固定資産の減損①(入門編)	25	税効果会計①(入門編)
	11	固定資産の減損②(入門編)	26	税効果会計②(入門編)
	12	繰延資産(入門編)	27	税効果会計③(入門編)
	13	社債(入門編)	28	外貨建取引①(入門編)
	14	貸倒引当金(入門編)	29	外貨建取引②(入門編)
	15	退職給付①(入門編)	30	外貨建取引③(入門編)
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験			
備考				

授業概要(シラバス)

タイトル	内容		
授業科目	1級会計学入門 I		
実務家教員授業			
学部・学科	情報ビジネス学科		
履修年次	1年次		
開講学期	前期		
科目区分	選択		
授業方法	講義		
単位数	3単位		
授業回数	45回		
授業概要	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ		
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る		
達成目標	現行基準の理論体系の理解を目的とする		
教科書	オリジナルテキスト		
特記			
授業計画	31	商品売買等①(入門編)	
	32	商品売買等②(入門編)	
	33	商品売買等③(入門編)	
	34	本支店会計①(入門編)	
	35	本支店会計②(入門編)	
	36	本支店会計③(入門編)	
	37	連結財務諸表総論①(入門編)	
	38	連結財務諸表総論②(入門編)	
	39	資本連結①(入門編)	
	40	資本連結②(入門編)	
	41	資本連結③(入門編)	
	42	資本連結④(入門編)	
	43	成果連結①(入門編)	
	44	成果連結②(入門編)	
	45	成果連結③(入門編)	
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験		
備考			

授業概要(シラバス)

タイトル	内容			
授業科目	1級原価計算入門 I			
実務家教員授業				
学部・学科	情報ビジネス学科			
履修年次	1年次			
開講学期	前期			
科目区分	選択			
授業方法	講義			
単位数	3単位			
授業回数	45回			
授業概要	伝統的な工業簿記および原価計算の基本的な内容を学ぶ			
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る			
達成目標	工企業を前提とする会計処理の習得を目的とする			
教科書	オリジナルテキスト			
特記				
授業計画	1	工業簿記と原価計算(入門編)	16	総合原価計算⑦(入門編)
	2	費目別計算①(入門編)	17	総合原価計算⑧(入門編)
	3	費目別計算②(入門編)	18	標準原価計算①(入門編)
	4	部門別計算①(入門編)	19	標準原価計算②(入門編)
	5	部門別計算②(入門編)	20	標準原価計算③(入門編)
	6	部門別計算③(入門編)	21	標準原価計算④(入門編)
	7	部門別計算④(入門編)	22	標準原価計算⑤(入門編)
	8	部門別計算⑤(入門編)	23	直接原価計算(入門編)
	9	部門別計算⑥(入門編)	24	短期利益計画①(入門編)
	10	個別原価計算①(入門編)	25	短期利益計画②(入門編)
	11	個別原価計算②(入門編)	26	短期利益計画③(入門編)
	12	個別原価計算③(入門編)	27	予算管理①(入門編)
	13	総合原価計算④(入門編)	28	予算管理②(入門編)
	14	総合原価計算⑤(入門編)	29	予算管理③(入門編)
	15	総合原価計算⑥(入門編)	30	業務的意思決定①(入門編)
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験			
備考				

授業概要(シラバス)

タイトル	内容		
授業科目	1級原価計算入門 I		
実務家教員授業			
学部・学科	情報ビジネス学科		
履修年次	1年次		
開講学期	前期		
科目区分	選択		
授業方法	講義		
単位数	3単位		
授業回数	45回		
授業概要	伝統的な工業簿記および原価計算の基本的な内容を学ぶ		
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る		
達成目標	工企業を前提とする会計処理の習得を目的とする		
教科書	オリジナルテキスト		
特記			
授業計画	31	業務的意思決定② (入門編)	
	32	業務的意思決定③ (入門編)	
	33	業務的意思決定④ (入門編)	
	34	業務的意思決定⑤ (入門編)	
	35	業務的意思決定⑥ (入門編)	
	36	構造的意意思決定① (入門編)	
	37	構造的意意思決定② (入門編)	
	38	構造的意意思決定③ (入門編)	
	39	構造的意意思決定④ (入門編)	
	40	構造的意意思決定⑤ (入門編)	
	41	構造的意意思決定⑥ (入門編)	
	42	戦略的原価計算① (入門編)	
	43	戦略的原価計算② (入門編)	
	44	戦略的原価計算③ (入門編)	
	45	戦略的原価計算④ (入門編)	
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験		
備考			

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	1級会計学基礎 I	
実務家教員授業		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計の基礎について学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	会計知識の習得および計算技術を身に付けることを目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	持分法①(基礎編)
	2	持分法②(基礎編)
	3	連結税効果①(基礎編)
	4	連結税効果②(基礎編)
	5	包括利益(基礎編)
	6	在外子会社(基礎編)
	7	企業結合①(基礎編)
	8	企業結合②(基礎編)
	9	事業分離①(基礎編)
	10	事業分離②(基礎編)
	11	キャッシュフロー計算書①(基礎編)
	12	キャッシュフロー計算書②(基礎編)
	13	連結キャッシュフロー計算書①(基礎編)
	14	連結キャッシュフロー計算書②(基礎編)
	15	会計上の変更及び誤謬の訂正(基礎編)
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験	
備考		

授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	1級原価計算基礎 I	
実務家教員授業		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎および経営戦略の基本的な内容を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	最新の原価管理理論の基礎の習得および計算技術の習得を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	個別原価計算（基礎編）
	2	部門別計算（基礎編）
	3	総合原価計算（基礎編）
	4	標準原価計算（基礎編）
	5	直接原価計算（基礎編）
	6	短期利益計画（基礎編）
	7	予算管理（基礎編）
	8	事業部制（基礎編）
	9	業務的意思決定①（基礎編）
	10	業務的意思決定②（基礎編）
	11	構造的意意思決定①（基礎編）
	12	構造的意意思決定②（基礎編）
	13	構造的意意思決定③（基礎編）
	14	戦略的原価計算①（基礎編）
	15	戦略的原価計算②（基礎編）
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験	
備考		

授業概要(シラバス)

タイトル	内容			
授業科目	1級会計学総合 I			
実務家教員授業				
学部・学科	情報ビジネス学科			
履修年次	1年次			
開講学期	後期			
科目区分	選択			
授業方法	演習			
単位数	3単位			
授業回数	45回			
授業概要	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計について、より詳細に学ぶ			
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る			
達成目標	簿記1級検定合格程度の会計知識および計算技術の習得を目的とする			
教科書	オリジナルテキスト			
特記				
授業計画	1	商業簿記・会計学総まとめ①	16	商業簿記・会計学総まとめ⑯
	2	商業簿記・会計学総まとめ②	17	商業簿記・会計学総まとめ⑰
	3	商業簿記・会計学総まとめ③	18	商業簿記・会計学総まとめ⑱
	4	商業簿記・会計学総まとめ④	19	商業簿記・会計学総まとめ⑲
	5	商業簿記・会計学総まとめ⑤	20	商業簿記・会計学総まとめ⑳
	6	商業簿記・会計学総まとめ⑥	21	商業簿記・会計学総まとめ㉑
	7	商業簿記・会計学総まとめ⑦	22	商業簿記・会計学総まとめ㉒
	8	商業簿記・会計学総まとめ⑧	23	商業簿記・会計学総まとめ㉓
	9	商業簿記・会計学総まとめ⑨	24	商業簿記・会計学総まとめ㉔
	10	商業簿記・会計学総まとめ⑩	25	商業簿記・会計学総まとめ㉕
	11	商業簿記・会計学総まとめ⑪	26	総合問題対策① (テスト形式の問題解説)
	12	商業簿記・会計学総まとめ⑫	27	総合問題対策② (テスト形式の問題解説)
	13	商業簿記・会計学総まとめ⑬	28	総合問題対策③ (テスト形式の問題解説)
	14	商業簿記・会計学総まとめ⑭	29	総合問題対策④ (テスト形式の問題解説)
	15	商業簿記・会計学総まとめ⑮	30	総合問題対策⑤ (テスト形式の問題解説)
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験			
備考				

授業概要(シラバス)

タイトル	内容		
授業科目	1級会計学総合 I		
実務家教員授業			
学部・学科	情報ビジネス学科		
履修年次	1年次		
開講学期	後期		
科目区分	選択		
授業方法	演習		
単位数	3単位		
授業回数	45回		
授業概要	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計について、より詳細に学ぶ		
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る		
達成目標	簿記1級検定合格程度の会計知識および計算技術の習得を目的とする		
教科書	オリジナルテキスト		
特記			
授業計画	31	総合問題対策⑥ (テスト形式の問題解説)	
	32	総合問題対策⑦ (テスト形式の問題解説)	
	33	総合問題対策⑧ (テスト形式の問題解説)	
	34	総合問題対策⑨ (テスト形式の問題解説)	
	35	総合問題対策⑩ (テスト形式の問題解説)	
	36	総合問題対策⑪ (テスト形式の問題解説)	
	37	総合問題対策⑫ (テスト形式の問題解説)	
	38	総合問題対策⑬ (テスト形式の問題解説)	
	39	総合問題対策⑭ (テスト形式の問題解説)	
	40	総合問題対策⑮ (テスト形式の問題解説)	
	41	総合問題対策⑯ (テスト形式の問題解説)	
	42	総合問題対策⑰ (テスト形式の問題解説)	
	43	総合問題対策⑱ (テスト形式の問題解説)	
	44	総合問題対策⑲ (テスト形式の問題解説)	
	45	総合問題対策⑳ (テスト形式の問題解説)	
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験		
備考			

授業概要(シラバス)

タイトル	内容			
授業科目	1級原価計算総合 I			
実務家教員授業				
学部・学科	情報ビジネス学科			
履修年次	1年次			
開講学期	後期			
科目区分	選択			
授業方法	演習			
単位数	3単位			
授業回数	45回			
授業概要	原価計算基準の理論体系、多様化する製造過程に対する会計処理、経営戦略について、より詳細に学ぶ			
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る			
達成目標	簿記1級検定合格程度の原価計算知識および計算技術の習得を目的とする			
教科書	オリジナルテキスト			
特記				
授業計画	1	工業簿記・原価計算総まとめ①	16	工業簿記・原価計算総まとめ⑯
	2	工業簿記・原価計算総まとめ②	17	工業簿記・原価計算総まとめ⑰
	3	工業簿記・原価計算総まとめ③	18	工業簿記・原価計算総まとめ⑱
	4	工業簿記・原価計算総まとめ④	19	工業簿記・原価計算総まとめ⑲
	5	工業簿記・原価計算総まとめ⑤	20	工業簿記・原価計算総まとめ⑳
	6	工業簿記・原価計算総まとめ⑥	21	工業簿記・原価計算総まとめ㉑
	7	工業簿記・原価計算総まとめ⑦	22	工業簿記・原価計算総まとめ㉒
	8	工業簿記・原価計算総まとめ⑧	23	工業簿記・原価計算総まとめ㉓
	9	工業簿記・原価計算総まとめ⑨	24	工業簿記・原価計算総まとめ㉔
	10	工業簿記・原価計算総まとめ⑩	25	工業簿記・原価計算総まとめ㉕
	11	工業簿記・原価計算総まとめ⑪	26	総合問題対策① (テスト形式の問題解説)
	12	工業簿記・原価計算総まとめ⑫	27	総合問題対策② (テスト形式の問題解説)
	13	工業簿記・原価計算総まとめ⑬	28	総合問題対策③ (テスト形式の問題解説)
	14	工業簿記・原価計算総まとめ⑭	29	総合問題対策④ (テスト形式の問題解説)
	15	工業簿記・原価計算総まとめ⑮	30	総合問題対策⑤ (テスト形式の問題解説)
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験			
備考				

授業概要(シラバス)

タイトル	内容		
授業科目	1級原価計算総合 I		
実務家教員授業			
学部・学科	情報ビジネス学科		
履修年次	1年次		
開講学期	後期		
科目区分	選択		
授業方法	演習		
単位数	3単位		
授業回数	45回		
授業概要	原価計算基準の理論体系、多様化する製造過程に対する会計処理、経営戦略について、より詳細に学ぶ		
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る		
達成目標	簿記1級検定合格程度の原価計算知識および計算技術の習得を目的とする		
教科書	オリジナルテキスト		
特記			
授業計画	31	総合問題対策⑥ (テスト形式の問題解説)	
	32	総合問題対策⑦ (テスト形式の問題解説)	
	33	総合問題対策⑧ (テスト形式の問題解説)	
	34	総合問題対策⑨ (テスト形式の問題解説)	
	35	総合問題対策⑩ (テスト形式の問題解説)	
	36	総合問題対策⑪ (テスト形式の問題解説)	
	37	総合問題対策⑫ (テスト形式の問題解説)	
	38	総合問題対策⑬ (テスト形式の問題解説)	
	39	総合問題対策⑭ (テスト形式の問題解説)	
	40	総合問題対策⑮ (テスト形式の問題解説)	
	41	総合問題対策⑯ (テスト形式の問題解説)	
	42	総合問題対策⑰ (テスト形式の問題解説)	
	43	総合問題対策⑱ (テスト形式の問題解説)	
	44	総合問題対策⑲ (テスト形式の問題解説)	
	45	総合問題対策⑳ (テスト形式の問題解説)	
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験		
備考			

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	3級商業簿記基礎	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
単位数	3単位	
授業回数	45回	
授業概要	株式会社における複式簿記の基本原則、簿記の基本原則を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	株式会社を前提とした一般的な企業取引に対する会計処理、企業取引に対する会計処理、報告書類の理解を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	簿記の目的
	2	簿記一巡①
	3	簿記一巡②
	4	商品売買①
	5	商品売買②
	6	現金および預金①
	7	現金および預金②
	8	手形
	9	有形固定資産
	10	その他の債権および債務①
	11	その他の債権および債務②
	12	税金
	13	その他の勘定および訂正仕訳
	14	株式会社の資本
	15	確認テスト（第1回）
	16	決算①（繰越商品および仕入の決算整理）
	17	決算②（決算整理後残高試算表）
	18	決算③（精算表）
	19	決算④（有形固定資産の決算整理）
	20	決算⑤（有形固定資産の決算整理）
	21	決算⑥（有形固定資産の決算整理）
	22	決算⑦（受取手形および売掛金の決算整理）
	23	決算⑧（費用および収益の決算整理）
	24	決算⑨（費用および収益の決算整理）
	25	決算⑩（その他の決算整理）
	26	決算⑪（その他の決算整理）
	27	決算⑫（その他の決算整理）
	28	確認テスト（第2回）
	29	商業簿記総まとめ①
	30	商業簿記総まとめ②
	31	商業簿記総まとめ③
	32	商業簿記総まとめ④
	33	商業簿記総まとめ⑤
	34	商業簿記総まとめ⑥
	35	損益計算書および貸借対照表①
	36	損益計算書および貸借対照表②
	37	損益計算書および貸借対照表③
	38	主要簿と補助簿①
	39	主要簿と補助簿②
	40	主要簿と補助簿③
	41	主要簿と補助簿④
	42	主要簿と補助簿⑤
	43	主要簿と補助簿⑥
	44	伝票①
	45	伝票②
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	3級簿記総合
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	1年次
開講区分	前期
科目区分	選択
授業方法	演習
単位数	4単位
授業回数	60回
授業概要	基礎レベルではやや難しい会計処理を問題演習を通じて学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	簿記3級レベルの会計知識と計算技術の習得を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 商業簿記総まとめ①（基礎編）
	2 商業簿記総まとめ②（基礎編）
	3 商業簿記総まとめ③（基礎編）
	4 商業簿記総まとめ④（基礎編）
	5 商業簿記総まとめ⑤（基礎編）
	6 商業簿記総まとめ⑥（基礎編）
	7 商業簿記総まとめ⑦（基礎編）
	8 商業簿記総まとめ⑧（基礎編）
	9 商業簿記総まとめ⑨（基礎編）
	10 商業簿記総まとめ⑩（基礎編）
	11 商業簿記総まとめ⑪（基礎編）
	12 商業簿記総まとめ⑫（基礎編）
	13 商業簿記総まとめ⑬（基礎編）
	14 商業簿記総まとめ⑭（基礎編）
	15 商業簿記総まとめ⑮（基礎編）
	16 商業簿記総まとめ⑰（応用編）
	17 商業簿記総まとめ⑱（応用編）
	18 商業簿記総まとめ⑲（応用編）
	19 商業簿記総まとめ⑳（応用編）
	20 商業簿記総まとめ㉑（応用編）
	21 商業簿記総まとめ㉒（応用編）
	22 商業簿記総まとめ㉓（応用編）
	23 商業簿記総まとめ㉔（応用編）
	24 商業簿記総まとめ㉕（応用編）
	25 商業簿記総まとめ㉖（応用編）
	26 商業簿記総まとめ㉗（応用編）
	27 商業簿記総まとめ㉘（応用編）
	28 商業簿記総まとめ㉙（応用編）
	29 商業簿記総まとめ㉚（応用編）
	30 商業簿記総まとめ㉛（応用編）
	31 総合問題対策①
	32 総合問題対策②
	33 総合問題対策③
	34 総合問題対策④
	35 総合問題対策⑤
	36 総合問題対策⑥
	37 総合問題対策⑦
	38 総合問題対策⑧
	39 総合問題対策⑨
	40 総合問題対策⑩
	41 総合問題対策⑪
	42 総合問題対策⑫
	43 総合問題対策⑬
	44 総合問題対策⑭
	45 総合問題対策⑮
	46 総合問題演習①
	47 総合問題演習②
	48 総合問題演習③
	49 総合問題演習④
	50 総合問題演習⑤
	51 総合問題演習⑥
	52 総合問題演習⑦
	53 総合問題演習⑧
	54 総合問題演習⑨
	55 総合問題演習⑩
	56 総合問題演習⑪
	57 総合問題演習⑫
	58 総合問題演習⑬
	59 総合問題演習⑭
	60 総合問題演習⑮
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	2級商業簿記基礎Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	1年次
開講区分	前期
科目区分	選択
授業方法	講義
単位数	3単位
授業回数	45回
授業概要	試算表、精算表、財務報告書など他の会計書類の関連性について体系的に学び、財務報告書類の作成方法・株式会社会計を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	商企業を前提とした、伝票会計、帳簿組織などの記帳技術を習得しつつ、報告書類の理解、企業取引に対する会計処理の理解を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 総論①（基礎編）
	2 総論②（基礎編）
	3 収益と費用（基礎編）
	4 棚卸資産①（基礎編）
	5 棚卸資産②（基礎編）
	6 棚卸資産③（基礎編）
	7 現金預金①（基礎編）
	8 現金預金②（基礎編）
	9 債権・債務等（基礎編）
	10 有価証券①（基礎編）
	11 有価証券②（基礎編）
	12 有価証券③（基礎編）
	13 有価証券④（基礎編）
	14 有価証券⑤（基礎編）
	15 有価証券⑥（基礎編）
	16 固定資産①（基礎編）
	17 固定資産②（基礎編）
	18 固定資産③（基礎編）
	19 固定資産④（基礎編）
	20 固定資産⑤（基礎編）
	21 固定資産⑥（基礎編）
	22 為替換算会計①（基礎編）
	23 為替換算会計②（基礎編）
	24 為替換算会計③（基礎編）
	25 引当金①（基礎編）
	26 引当金②（基礎編）
	27 引当金③（基礎編）
	28 法人税等①（基礎編）
	29 法人税等②（基礎編）
	30 法人税等③（基礎編）
	31 株式会社の純資産①（基礎編）
	32 株式会社の純資産②（基礎編）
	33 株式会社の純資産③（基礎編）
	34 企業結合（基礎編）
	35 株主資本等変動計算書①（基礎編）
	36 株主資本等変動計算書②（基礎編）
	37 連結会計①（基礎編）
	38 連結会計②（基礎編）
	39 連結会計③（基礎編）
	40 連結会計④（基礎編）
	41 連結会計⑤（基礎編）
	42 連結会計⑥（基礎編）
	43 連結会計⑦（基礎編）
	44 連結会計⑧（基礎編）
	45 連結会計⑨（基礎編）
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	2級工業簿記基礎Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
単位数	3単位	
授業回数	45回	
授業概要	工業簿記および原価計算の関係および会計処理を学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	工企業の原価計算手法である個別原価計算および総合原価計算を学び、かつ、原価計算に関する知識習得を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	工業簿記の基礎
	2	工業簿記の記帳体系（個別原価計算）
	3	材料費会計①
	4	材料費会計②
	5	労務費会計①
	6	労務費会計②
	7	経費会計
	8	製造間接費会計①
	9	製造間接費会計②
	10	単純個別原価計算①
	11	単純個別原価計算②
	12	単純個別原価計算③
	13	部門別計算①
	14	部門別計算②
	15	部門別計算③
	16	確認テスト（第1回）
	17	工企業の財務諸表①
	18	工企業の財務諸表②
	19	工業簿記の記帳体系（総合原価計算）
	20	総合原価計算①
	21	総合原価計算②
	22	総合原価計算③
	23	総合原価計算④
	24	総合原価計算⑤
	25	総合原価計算⑥
	26	工程別総合原価計算①
	27	工程別総合原価計算②
	28	組別総合原価計算
	29	等級別総合原価計算①
	30	等級別総合原価計算②
	31	標準原価計算①
	32	標準原価計算②
	33	標準原価計算③
	34	原価・営業量・利益関係の分析①
	35	原価・営業量・利益関係の分析②
	36	工場会計の独立
	37	直接原価計算①
	38	直接原価計算②
	39	確認テスト（第2回）
	40	工業簿記総まとめ①
	41	工業簿記総まとめ②
	42	工業簿記総まとめ③
	43	工業簿記総まとめ④
	44	工業簿記総まとめ⑤
	45	工業簿記総まとめ⑥
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	2級簿記総合Ⅱ
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	1年次
開講区分	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
単位数	3単位
授業回数	45回
授業概要	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学習し、総合問題の基礎も学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	簿記2級の基礎的な会計知識と計算技術の習得を目的とする
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 商業簿記総まとめ①（中級編）
	2 商業簿記総まとめ②（中級編）
	3 商業簿記総まとめ③（中級編）
	4 商業簿記総まとめ④（中級編）
	5 商業簿記総まとめ⑤（中級編）
	6 商業簿記総まとめ⑥（中級編）
	7 商業簿記総まとめ⑦（中級編）
	8 商業簿記総まとめ⑧（中級編）
	9 商業簿記総まとめ⑨（中級編）
	10 商業簿記総まとめ⑩（中級編）
	11 商業簿記総まとめ⑪（中級編）
	12 商業簿記総まとめ⑫（中級編）
	13 商業簿記総まとめ⑬（中級編）
	14 商業簿記総まとめ⑭（中級編）
	15 商業簿記総まとめ⑮（中級編）
	16 工業簿記総まとめ①（中級編）
	17 工業簿記総まとめ②（中級編）
	18 工業簿記総まとめ③（中級編）
	19 工業簿記総まとめ④（中級編）
	20 工業簿記総まとめ⑤（中級編）
	21 工業簿記総まとめ⑥（中級編）
	22 工業簿記総まとめ⑦（中級編）
	23 工業簿記総まとめ⑧（中級編）
	24 工業簿記総まとめ⑨（中級編）
	25 工業簿記総まとめ⑩（中級編）
	26 工業簿記総まとめ⑪（中級編）
	27 工業簿記総まとめ⑫（中級編）
	28 総合問題演習①（テスト形式_中級編）
	29 総合問題演習①（テスト形式_中級編）
	30 総合問題演習①（テスト形式_中級編）
	31 総合問題演習②（テスト形式_中級編）
	32 総合問題演習②（テスト形式_中級編）
	33 総合問題演習②（テスト形式_中級編）
	34 総合問題演習③（テスト形式_中級編）
	35 総合問題演習③（テスト形式_中級編）
	36 総合問題演習③（テスト形式_中級編）
	37 総合問題演習④（テスト形式_中級編）
	38 総合問題演習④（テスト形式_中級編）
	39 総合問題演習④（テスト形式_中級編）
	40 総合問題演習⑤（テスト形式_中級編）
	41 総合問題演習⑤（テスト形式_中級編）
	42 総合問題演習⑤（テスト形式_中級編）
	43 総合問題演習⑥（テスト形式_中級編）
	44 総合問題演習⑥（テスト形式_中級編）
	45 総合問題演習⑥（テスト形式_中級編）
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	2級簿記総合Ⅲ	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
単位数	3単位	
授業回数	45回	
授業概要	株式会社の会計処理を問題演習、総合問題の演習を通じて学ぶ	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	簿記2級の応用的な会計知識と計算技術の習得を目的とし、かつ、有価証券報告書を読み取ることができることを目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	商業簿記総まとめ①（応用編）
	2	商業簿記総まとめ②（応用編）
	3	商業簿記総まとめ③（応用編）
	4	商業簿記総まとめ④（応用編）
	5	商業簿記総まとめ⑤（応用編）
	6	商業簿記総まとめ⑥（応用編）
	7	商業簿記総まとめ⑦（応用編）
	8	商業簿記総まとめ⑧（応用編）
	9	商業簿記総まとめ⑨（応用編）
	10	商業簿記総まとめ⑩（応用編）
	11	商業簿記総まとめ⑪（応用編）
	12	商業簿記総まとめ⑫（応用編）
	13	商業簿記総まとめ⑬（応用編）
	14	商業簿記総まとめ⑭（応用編）
	15	商業簿記総まとめ⑮（応用編）
	16	工業簿記総まとめ①（応用編）
	17	工業簿記総まとめ②（応用編）
	18	工業簿記総まとめ③（応用編）
	19	工業簿記総まとめ④（応用編）
	20	工業簿記総まとめ⑤（応用編）
	21	工業簿記総まとめ⑥（応用編）
	22	工業簿記総まとめ⑦（応用編）
	23	工業簿記総まとめ⑧（応用編）
	24	工業簿記総まとめ⑨（応用編）
	25	工業簿記総まとめ⑩（応用編）
	26	工業簿記総まとめ⑪（応用編）
	27	工業簿記総まとめ⑫（応用編）
	28	総合問題演習①（テスト形式_応用編）
	29	総合問題演習①（テスト形式_応用編）
	30	総合問題演習①（テスト形式_応用編）
	31	総合問題演習②（テスト形式_応用編）
	32	総合問題演習②（テスト形式_応用編）
	33	総合問題演習②（テスト形式_応用編）
	34	総合問題演習③（テスト形式_応用編）
	35	総合問題演習③（テスト形式_応用編）
	36	総合問題演習③（テスト形式_応用編）
	37	総合問題演習④（テスト形式_応用編）
	38	総合問題演習④（テスト形式_応用編）
	39	総合問題演習④（テスト形式_応用編）
	40	総合問題演習⑤（テスト形式_応用編）
	41	総合問題演習⑤（テスト形式_応用編）
	42	総合問題演習⑤（テスト形式_応用編）
	43	総合問題演習⑥（テスト形式_応用編）
	44	総合問題演習⑥（テスト形式_応用編）
	45	総合問題演習⑥（テスト形式_応用編）
成績評価方法 (試験実施方法)	定期試験100% 基礎的な解答力を測定する試験	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容		
授業科目	I Tリテラシ		
実務家教員			
学部・学科	情報ビジネス学科		
履修年次	1年次		
開講区分	後期		
科目区分	選択		
授業方法	講義及び演習		
単位数	4単位		
授業回数	45回		
授業概要	ネットワーク、セキュリティの知識とコンピュータの基本操作を学ぶ		
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る		
達成目標	社会人として必要な情報リテラシの基礎を身につける		
教科書	オリジナルテキスト		
特記			
授業計画	1	コンピュータシステムの構成①	31 直前答案練習①
	2	コンピュータシステムの構成②	32 直前答案練習②
	3	コンピュータシステムの構成③	33 直前答案練習③
	4	ネットワークテクノロジー①	34 直前答案練習④
	5	ネットワークテクノロジー②	35 直前答案練習⑤
	6	ネットワークテクノロジー③	36 直前答案練習⑥
	7	ネットワークテクノロジー④	37 直前答案練習⑦
	8	ネットワークの構築と運用①	38 直前答案練習⑧
	9	ネットワークの構築と運用②	39 直前答案練習⑨
	10	ネットワークの構築と運用③	40 直前答案練習⑩
	11	ネットワークの構築と運用④	41 直前答案練習⑪
	12	情報セキュリティ①	42 直前答案練習⑫
	13	情報セキュリティ②	43 直前答案練習⑬
	14	情報セキュリティ③	44 直前答案練習⑭
	15	情報セキュリティ④	45 直前答案練習⑮
	16	情報セキュリティ⑤	
	17	項目別問題演習①	
	18	項目別問題演習②	
	19	項目別問題演習③	
	20	項目別問題演習④	
	21	項目別問題演習⑤	
	22	項目別問題演習⑥	
	23	項目別問題演習⑦	
	24	項目別問題演習⑧	
	25	項目別問題演習⑨	
	26	項目別問題演習⑩	
	27	項目別問題演習⑪	
	28	項目別問題演習⑫	
	29	項目別問題演習⑬	
	30	項目別問題演習⑭	
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における科目解答状況		
備考			

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	Power Point基礎	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義および演習	
単位数	1 単位	
授業回数	1 5 回	
授業概要	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作を理解する	
授業の進め方	テキストによる講義と演習により、知識及びスキルの定着を図る	
達成目標	テキストを確認しながら操作力を身につけ、プレゼンテーションを実践する	
教科書	外販テキスト	
特記		
授業計画	1	プレゼンテーションの企画
	2	分かりやすいストーリー構成
	3	必要な情報の収集
	4	センスアップするレイアウトデザイン
	5	視覚に訴えるチャート化
	6	訴求力を上げるカラー化
	7	数値をアピールする表・グラフ活用
	8	イメージを伝えるイラスト・写真活用
	9	発表で魅せるアニメーション
	10	自信を高める万全な準備
	11	メッセージが伝わる発表スキル
	12	信頼を得る質疑応答
	13	プレゼンテーション準備
	14	効果測定①
	15	効果測定②
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	業界・企業研究実践	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び実習	
単位数	1単位	
授業回数	10回	
授業概要	自分の価値観に合った企業選びができる	
授業の進め方	仕事や会社選びの基礎知識を身につけた上で、業界・企業研究を体系的に学ぶ	
達成目標	企業の方のセミナーを通して自分を理解し、業界を理解し、企業を選べるようになる	
教科書	レジュメ	
特記		
授業計画	1	仕事・会社選びの基礎知識①
	2	仕事・会社選びの基礎知識②
	3	仕事・会社選びの基礎知識③
	4	業界研究の基本（業界をどう見るか）①
	5	業界研究の基本（業界をどう見るか）②
	6	業界研究の基本（業界をどう見るか）③
	7	企業研究の基本（ビジネスモデルを理解する）
	8	企業の比較（業界セミナー）①
	9	企業の比較（業界セミナー）②
	10	企業の比較（業界セミナー）③
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、授業内レポートの完成度	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	経営学概論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、経営学を学ぶ目的や学問体系を理解すべく、経営学の枠組み、企業形態、経営組織等について概要を理解することにある。そして、戦略論、マーケティング論等の主要テーマについて基本となる知識を得ることで、経営学分野専門科目の学修への橋渡しとすることを目的とする。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、経営学に関する基本的知識や理論、体系を理解し、企業行動を説明できるようになることである。	
教科書	『経営学概論』 学文社	
特記		
授業計画	1	ガイダンス及び経営学とは何か
	2	企業とは何か
	3	企業論① 企業形態
	4	企業論② 現代企業の構造
	5	企業論③ コーポレート・ガバナンス論
	6	経営学説史① 管理論
	7	経営学説史② 意思決定論
	8	経営学説史③ リーダーシップ論
	9	経営管理論
	10	経営戦略論
	11	経営組織論
	12	マーケティング論
	13	国際経営論
	14	日本的経営論
	15	全体像の確認とまとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	マーケティング入門	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、グローバル化や AIの活用等、市場環境が急速に変化するとともに、消費者のニーズが多様化している昨今の現状にあって、マーケティングの基礎理論と体系を学び、その理論概念を用いて、周囲にある商品やサービスの事例に当てはめていくことにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標はマーケティングの理論概念や専門用語を自分の言葉でわかりやすく説明でき、その理論概念を使って、実際の商品やサービスを説明できるようになることである。	
教科書	『コトラーのマーケティング・コンセプト』 東洋経済新報社	
特記		
授業計画	1	マーケティング発想の経営
	2	マーケティング論の成り立ち
	3	マーケティングの基本概念
	4	製品のマネジメント
	5	価格のマネジメント
	6	広告のマネジメント
	7	チャネルのマネジメント
	8	サプライチェーンのマネジメント
	9	営業のマネジメント
	10	顧客関係のマネジメント
	11	ビジネスモデルのマネジメント
	12	顧客理解のマネジメント
	13	ブランド構築のマネジメント
	14	ブランド組織のマネジメント
	15	社会責任のマネジメント
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	国際ビジネス入門	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、日本企業やグローバル企業における国際ビジネスに関する歴史等を概観した上で、大手企業だけでなく、中小企業間でも国際化が進展している昨今の状況を踏まえ、事業執行にあたっての主な職能、日本企業において重要進出拠点となる国や地域のビジネス環境等を学ぶことにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、国際ビジネスにおける理論と実践の両面から、国や地域の特色並びに職能の在り方について理解するとともに、様々な角度から見方や思考を養うことで、国際的視野を広げることである。	
教科書	『国際ビジネス入門』 白桃書房	
特記		
授業計画	1	国際ビジネスの変遷と課題
	2	グローバル企業の国際経営戦略と組織
	3	国際ビジネスの職能的戦略
	4	国際マーケティング
	5	国際生産／国際研究開発
	6	国際人的資源管理
	7	中国と日本企業
	8	ベトナムと日本企業
	9	インドと日本企業／アフリカと日本企業
	10	M&Aと国際ビジネス
	11	プロフェッショナル・サービスと国際ビジネス
	12	ツーリズムと国際ビジネス
	13	多様性と国際ビジネス
	14	グローバルタレントマネジメントと国際ビジネス
	15	ビジネスと国際ビジネス
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ファイナンス入門	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券市場の仕組み、金融商品の価格、将来価値と現在価値の考え方、さらには債券と株式の基礎的分析手法等を学ぶことにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、ファイナンス理論における基本原理や数理的手法を理解し、企業等の財務活動や資産運用、金融の仕組みに対する認識を深めることである。	
教科書	『道具としてのファイナンス』 日本実業出版社	
特記		
授業計画	1	ファイナンスの概要
	2	投資に関する理論①
	3	投資に関する理論②
	4	証券投資に関する理論①
	5	証券投資に関する理論②
	6	企業価値評価①
	7	企業価値評価②
	8	企業の最適資本構成と配当・自社株買い①
	9	企業の最適資本構成と配当・自社株買い②
	10	資本市場に関する理論①
	11	資本市場に関する理論②
	12	デリバティブの理論と実践的知識①
	13	デリバティブの理論と実践的知識②
	14	経営の自由度の価値評価①
	15	経営の自由度の価値評価②
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	経済原論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、ミクロ経済学並びにマクロ経済学の基礎と理論を学び、社会を取り巻く環境や社会現象の中で、経済学がどのように生かされているのかを考えていくことにある。また、本科目の内容は、経済学や経営学の応用分野を学ぶ上で、修得しておくことが前提となる。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、教科書の中で紹介されている経済基礎用語について、自分の言葉で説明することができ、さらに、社会現象を経済学の視点から捉えることができる経済的思考を得ることである。	
教科書	『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社	
特記		
授業計画	1	経済学の十大原理
	2	経済学者らしく考える
	3	相互依存と交易(貿易)からの利益
	4	ミクロ経済学① 市場における需要と共有の作用
	5	ミクロ経済学② 需要、供給及び政府の政策
	6	ミクロ経済学③ 弾力性
	7	ミクロ経済学④ 消費者、生産者、市場の効率性
	8	ミクロ経済学⑤ 税と効率・公平
	9	ミクロ経済学⑥ 外部性
	10	マクロ経済学① 国民所得の測定
	11	マクロ経済学② 生計費の測定
	12	マクロ経済学③ 生産と成長(失業含む)
	13	マクロ経済学④ 貯蓄、投資と金融システム(貨幣システム含む)
	14	マクロ経済学⑤ 総需要と総供給
	15	マクロ経済学⑥ 開放マクロ経済学(基本概念)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	簿記原理	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、企業活動を記録するための手法である簿記の基礎を学ぶことにある。そして、簿記を理解することによって、企業で経理事務に必要な会計知識だけではなく、財務諸表を読む力や基本的な経営管理のスキル等を修得する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、簿記の基本用語や複式簿記の基本的な仕組みを理解した上で、仕訳や精算表の作成、貸借対照表・損益計算書の作成ができるようになることである。	
教科書	『基本簿記原理』 中央経済社	
特記		
授業計画	1	ガイダンス及び簿記の意義と基礎
	2	貸借対照表・損益計算書
	3	取引と勘定記入及び仕訳帳と元帳
	4	試算表と精算表（決算予備手続）
	5	現金預金・商品売買
	6	売掛金と買掛金
	7	債権債務
	8	受取手形と支払手形
	9	貸倒れ・有形固定資産
	10	伝票・資本
	11	税金
	12	収益と費用
	13	8桁精算表
	14	財務諸表
	15	全体像の確認とまとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ミクロ経済学	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、経済学における基礎科目として、市場を分析し、役割を理解することを目的とする。具体的には、消費者行動、生産者行動等のミクロ経済学理論を体系的に学び、現実の経済の問題と関連させながら学ぶことにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、ミクロ経済学理論を理解し、数式とグラフで表現できるようになることである。	
教科書	『ミクロ経済学』 日本評論社	
特記		
授業計画	1	ミクロ経済学概観／需要と供給
	2	需要曲線と消費者行動
	3	費用の構造と供給行動
	4	市場取引と資源配分
	5	消費者行動の理論
	6	消費者行動理論の展開
	7	生産と費用
	8	一般均衡と資源配分
	9	独占の理論
	10	ゲームの理論
	11	ゲームの理論の応用
	12	市場の失敗
	13	不確実性とリスク
	14	不完全情報の経済学
	15	異時点間の資源配分
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	マクロ経済学	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、経済学における基礎科目として、国全体の経済を分析するマクロ経済学の基礎理論を学習することにある。具体的には、各種指標、とりわけ GDPの決定メカニズム、経済成長、景気変動等の基礎的内容からマクロ経済学派の思考を学修する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、マクロ経済学特有の思考経済学理論を理解し、数式とグラフで表現できるようになることである。	
教科書	『マクロ経済学』 日本評論社	
特記		
授業計画	1	マクロ経済学の捉え方
	2	マクロ経済における需要と供給
	3	有効需要と乗数メカニズム
	4	貨幣の機能と信用創造
	5	貨幣需要と利率
	6	財政政策の基本的構造
	7	財政・金融政策とマクロ経済
	8	総需要と総供給
	9	労働市場の機能と失業問題
	10	インフレーションとデフレーション
	11	財政破綻と財政健全化
	12	金融政策と金融システム
	13	国際金融市場と為替レート
	14	通貨制度とマクロ経済政策
	15	経済成長と経済発展
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	財務会計基礎	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、主に企業会計で使われるもので、企業における事業活動の結果を反映する会計情報を外部の利害関係者に報告するための会計として、まずは、会計原則並びに理論を学び、それらの役割を理解するとともに、貸借対照表に関する内容を学修することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、財務会計の基本的な概念と理論を理解し、主要な会計基準を学んだ上で、自分で説明できるようにすることである。	
教科書	『財務会計・入門』 有斐閣	
特記		
授業計画	1	会計の種類と役割
	2	財務会計のシステムと基本原則
	3	企業の設立と資金調達
	4	仕入・生産活動
	5	販売活動
	6	設備投資と研究開発
	7	資金の管理と運用
	8	国際活動
	9	税金と配当
	10	財務諸表の作成と公開①
	11	財務諸表の作成と公開②
	12	企業集団の財務報告①
	13	企業集団の財務報告②
	14	財務諸表による経営分析①
	15	財務諸表による経営分析②
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	競争戦略論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、競合企業に対して持続的な競争優位性を確立するための戦略である競争戦略に焦点を当て、競争戦略の基礎理論やフレームワーク、企業間競争における戦略の分析までを確認し、体系的な理解を得るとともに、実際の経営現象に当てはめて思考することで、実践的な知識の修得を図ることにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	<p>本授業の到達目標は、競争戦略に知識や理論、体系、フレームワークを理解し、実際の企業行動に当てはめて説明できるようになることにある。</p> <p>具体的には、以下の点を挙げる。</p> <p>① 業界における競争構造分析の目的と必要性が説明できること。</p> <p>② ファイブフォース分析に係る説明ができること。</p> <p>③ 競争戦略論の思考方法を通じて経営現象を捉えることができること。</p>	
教科書	『競争戦略論』 東洋経済新報社	
特記		
授業計画	1	ガイダンス及び競争戦略論の位置付けと意義
	2	ポジショニングアプローチ
	3	ファイブフォース分析①
	4	ファイブフォース分析②
	5	ファイブフォース分析③
	6	ポーターの3つの基本戦略①
	7	ポーターの3つの基本戦略②
	8	資源アプローチ①
	9	資源アプローチ②
	10	ゲームアプローチ①
	11	ゲームアプローチ②
	12	学習アプローチ①
	13	学習アプローチ②
	14	複眼的戦略アプローチ①
	15	複眼的戦略アプローチ②及び総括と論点の整理
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	国際経営論
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	1年次
開講区分	後期
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	2単位
授業回数	15回
授業概要	本授業の目的は、まずは国際経営の歴史的展開を学び、多国籍企業における組織と戦略並びに実態を理解することにある。そして、国際的に広がった企業の活動は、いかに組織・運営され、いかに文化や歴史的背景を異にする国と地域に販売・生産・研究開発拠点を配置するののか等の固有の問題についても学修していく。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	本授業の到達目標は、国際経営に関する知識を得て理解し、国際経営論の視点で多国籍企業の経営王道を理解・分析できるようになることにある。
教科書	『国際経営』 有斐閣
特記	
授業計画	1 ガイダンス及び国際経営の基礎知識
	2 国際経営の歴史
	3 国際経営の制度と環境
	4 国際経営戦略
	5 国際マーケティング
	6 海外生産
	7 技術移転と海外研究開発
	8 国際経営マネジメント
	9 北米・欧州のなかの日本企業
	10 アジアのなかの日本企業
	11 新興国市場と日本企業
	12 サービス企業の海外進出
	13 国際経営の新展開
	14 分断の国際経営
	15 総括と論点の整理
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ブランドマネジメント論
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	1年次
開講区分	後期
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	2単位
授業回数	15回
授業概要	本授業の目的は、ブランド戦略を立案・構築するために必要となる理論的観点からの枠組みを理解することにある。具体的には、ブランド戦略と価値創造、ブランド要素戦略、ブランドと経験価値等を体系的に理解していくことで、ブランド構築が競争優位持続化の手段としていかに重要であるかを学修していく。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	到達目標は、製品開発とブランド構築の戦略的意義について理解し、自らの言葉で他者に説明できるようになることである。
教科書	『製品・ブランド戦略』 有斐閣
特記	
授業計画	1 製品・ブランド戦略と価値創造①
	2 製品・ブランド戦略と価値創造②
	3 新製品開発のマーケティング①
	4 新製品開発のマーケティング②
	5 製品開発における顧客志向と顧客代行
	6 戦略的アライアンスと製品開発
	7 ブランド価値のデザイン
	8 ブランド要素戦略①
	9 ブランド要素戦略②
	10 サービスのブランド戦略①
	11 サービスのブランド戦略②
	12 ブランドと経験価値①
	13 ブランドと経験価値②
	14 ブランディング・ケイパビリティ
	15 ブランド・マネジメント組織の現状と課題
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	マーケティング論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、マーケティングの基礎を体系的に学修するとともに、具体的な企業のマーケティング戦略事例に触れながら、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、外部環境分析・内部環境分析、マーケティング・ミックス等に関する理解を深めていき、実務で利活用できることにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、企業経営におけるマーケティング理論の基本的な考え方を理解し、将来にわたって、実務で利活用できる素養を身に付けることである。	
教科書	『マーケティング戦略』 有斐閣	
特記		
授業計画	1	事業機会の選択
	2	事業領域の選択
	3	市場データ分析
	4	消費者行動分析
	5	競争分析
	6	流通分析
	7	製品対応
	8	価格対応
	9	コミュニケーション対応
	10	流通チャネル対応
	11	競争対応
	12	サービス・マーケティング
	13	ソーシャル・マーケティング
	14	関係性マーケティング
	15	デジタル・マーケティング
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容																														
授業科目	経営管理論																														
実務家教員																															
学部・学科	情報ビジネス学科																														
履修年次	1年次																														
開講区分	後期																														
科目区分	選択																														
授業方法	講義及び演習																														
単位数	2単位																														
授業回数	15回																														
授業概要	本授業の目的は、経営管理に必要な知識や理論等を体系的に理解することにある。具体的には、生産性と創造性の探求理論としての経営管理論という観点を前提に、組織デザインや経営戦略、資源の管理等の環境適応に関する管理、さらには、経営のリーダーシップや組織の活性化、企業文化の創造と変革等の変革の管理について体系的に理解した上で、現代の日本における経営管理のあり方等を学修する。																														
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る																														
達成目標	到達目標は、経営管理に関する変遷や概念等を体系的に理解した上で、経営管理論における理論を自分の言葉で他者に説明ができることである。また、現実の社会で生じている課題を発見し、理論を用いて分析できるようになることが望ましい。																														
教科書	『経営管理』 有斐閣																														
特記																															
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>経営の誕生(資本主義経済の発展と経営管理の生成)</td></tr> <tr><td>2</td><td>管理の時代(専門経営者の台頭と組織能力)</td></tr> <tr><td>3</td><td>経営管理の発展(生産性と創造性の探究理論としての経営管理論)</td></tr> <tr><td>4</td><td>組織のデザイン(環境適応へ向けての構造設計)</td></tr> <tr><td>5</td><td>経営戦略(企業経営の指針)</td></tr> <tr><td>6</td><td>資源の管理(企業成長のための根幹)</td></tr> <tr><td>7</td><td>組織間関係の管理(戦略的提携に向けての基礎)</td></tr> <tr><td>8</td><td>モチベーションと組織活性化(組織を支える人的要因)</td></tr> <tr><td>9</td><td>経営のリーダーシップ(活力と創造性の源泉)</td></tr> <tr><td>10</td><td>企業文化の創造と変革(見えざる秩序と構造の管理論)</td></tr> <tr><td>11</td><td>日本の経営管理①(変わる評価・変わらぬ体質)</td></tr> <tr><td>12</td><td>日本の経営管理②(変わる評価・変わらぬ体質)</td></tr> <tr><td>13</td><td>グローバル戦略①(日本企業の国際化の論理)</td></tr> <tr><td>14</td><td>グローバル戦略②(日本企業の国際化の論理)</td></tr> <tr><td>15</td><td>育てる経営の管理へ(経営の再生をめざして)</td></tr> </table>	1	経営の誕生(資本主義経済の発展と経営管理の生成)	2	管理の時代(専門経営者の台頭と組織能力)	3	経営管理の発展(生産性と創造性の探究理論としての経営管理論)	4	組織のデザイン(環境適応へ向けての構造設計)	5	経営戦略(企業経営の指針)	6	資源の管理(企業成長のための根幹)	7	組織間関係の管理(戦略的提携に向けての基礎)	8	モチベーションと組織活性化(組織を支える人的要因)	9	経営のリーダーシップ(活力と創造性の源泉)	10	企業文化の創造と変革(見えざる秩序と構造の管理論)	11	日本の経営管理①(変わる評価・変わらぬ体質)	12	日本の経営管理②(変わる評価・変わらぬ体質)	13	グローバル戦略①(日本企業の国際化の論理)	14	グローバル戦略②(日本企業の国際化の論理)	15	育てる経営の管理へ(経営の再生をめざして)
1	経営の誕生(資本主義経済の発展と経営管理の生成)																														
2	管理の時代(専門経営者の台頭と組織能力)																														
3	経営管理の発展(生産性と創造性の探究理論としての経営管理論)																														
4	組織のデザイン(環境適応へ向けての構造設計)																														
5	経営戦略(企業経営の指針)																														
6	資源の管理(企業成長のための根幹)																														
7	組織間関係の管理(戦略的提携に向けての基礎)																														
8	モチベーションと組織活性化(組織を支える人的要因)																														
9	経営のリーダーシップ(活力と創造性の源泉)																														
10	企業文化の創造と変革(見えざる秩序と構造の管理論)																														
11	日本の経営管理①(変わる評価・変わらぬ体質)																														
12	日本の経営管理②(変わる評価・変わらぬ体質)																														
13	グローバル戦略①(日本企業の国際化の論理)																														
14	グローバル戦略②(日本企業の国際化の論理)																														
15	育てる経営の管理へ(経営の再生をめざして)																														
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価																														
備考																															

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	経営組織論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、経営組織論の概念のもと、組織とは何かという視点に始まり、基礎理論、組織構造とデザイン、内部組織のマネジメント、外部環境との関係性から組織の戦略を考えていく等の考え方を体系的に理解するとともに、組織の変革の捉え方や進め方等も学修していくことにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、現代社会における組織の各種側面について多面的かつ批判的に見ることができ、学修を通して現代社会における組織の活動の意味を理解し、自分の言葉で他者に説明ができることである。	
教科書	『経営組織』 中央経済社	
特記		
授業計画	1	組織の基本を理解する①(組織とは何か)
	2	組織の基本を理解する②(組織の基礎理論)
	3	組織の基本を理解する③(組織構造と組織デザイン)
	4	内部組織のマネジメント①(組織におけるモチベーション)
	5	内部組織のマネジメント②(集団力学)
	6	内部組織のマネジメント③(組織の意思決定)
	7	内部組織のマネジメント④(組織と環境)
	8	組織内外のダイナミクス①(組織構造のダイナミクス)
	9	組織内外のダイナミクス②(組織間関係①)
	10	組織内外のダイナミクス③(組織間関係②)
	11	組織内外のダイナミクス④(組織変革の捉え方①)
	12	組織内外のダイナミクス⑤(組織変革の捉え方②)
	13	組織内外のダイナミクス⑥(組織変革の進め方①)
	14	組織内外のダイナミクス⑦(組織変革の進め方②)
	15	組織内外のダイナミクス⑧(組織のパラドックス)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	財務諸表論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、企業外部の利害関係者に対して、企業の財務状況や経営状況を報告するために行われるという観点から、経済社会において重要な情報源であるという財務会計について、財務諸表（貸借対照表、損益及び包括利益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書）を通して、企業の経営状況や会計の枠組み等を理解することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、会計制度の基本的部分を学び、財務諸表の種類や作成方法、作成上の根拠となる考え方を押さえるとともに、その見方や分析手法を理解し、活用できるようになることである。	
教科書	『財務会計講義』 中央経済社	
特記		
授業計画	1	財務会計の機能と制度
	2	利益計算の仕組み
	3	会計理論と会計基準
	4	利益測定と資産評価の基礎概念
	5	現金預金と有価証券
	6	売上高と売上債権
	7	棚卸資産と売上原価
	8	有形固定資産と減価償却
	9	無形固定資産と繰延資産
	10	負債
	11	株主資本と純資産
	12	財務諸表の作成と公開
	13	連結財務諸表①
	14	連結財務諸表②
	15	外貨建取引等の換算
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	統計分析入門	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、企業価値向上に繋げるべく、リスク管理としてのリスクの計量化を図ったり、各種戦略の策定を適切に行うにあたっては、データに基づいた客観的な意思決定をする必要がある等の状況を踏まえ、統計学の基本的理論を用いてデータ整理から要約、さらにはデータ傾向の抽出を行うといった一連の統計分析手法を学修することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、統計学における基礎的理論を理解し、他者に説明ができることである。また、収集・分析したデータを適切な方法で可視化するとともに、その可視化された成果物を考察できることである。	
教科書	『入門 実践する統計学』 東洋経済新報社	
特記		
授業計画	1	統計学とは
	2	基礎編①(データの記述)
	3	基礎編②(相関)
	4	基礎編③(確率)
	5	基礎編④(確率変数と確率分布)
	6	基礎編⑤(主要な確率分布)
	7	基礎編⑥(母数の推定)
	8	基礎編⑦(仮説検定)
	9	応用編①(正規分布の派生分布)
	10	応用編②(回帰分析の基礎)
	11	応用編③(単回帰分析)
	12	応用編④(単回帰分析)
	13	応用編⑤(重回帰分析)
	14	応用編⑥(重回帰分析)
	15	総復習
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	A I ・ データサイエンス基礎概論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、大量のデータから有益な情報、法則、知見等を導き出すための手法であるデータサイエンスの基礎知識や理論、技能の修得をすることにある。具体的には、データ取得と管理、散布図や相関係数等のデータ分析の基礎、クロス集計や回帰分析等のデータサイエンス手法、さらには、機械学習と AI (人工知能) 等を学修する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、データサイエンスの実際の活用場面を想起し、統計と確率の概念、データ分析手法の意義と分析の仕方、AI (人工知能) と機械学習の仕組みを理解することである。	
教科書	『データサイエンス入門』 学術図書出版社	
特記		
授業計画	1	データサイエンスの役割
	2	データサイエンスと情報倫理
	3	データ分析のためのデータの取得と管理
	4	ヒストグラム・箱ひげ図・平均値と分散
	5	散布図と相関係数
	6	回帰直線
	7	データ分析で注意すべき点
	8	クロス集計
	9	回帰分析
	10	ベイズ推論
	11	アソシエーション分析
	12	クラスタリング
	13	決定木
	14	ニューラルネットワーク
	15	機械学習とAI (人工知能)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ビジネスデータ分析	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、統計学の理論と統計手法の基礎を修得し、マーケティングの分野で統計学をどのように活用できるかを理解することにある。実際に、統計ソフトRを利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身に付けることにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、統計理論や各種統計モデルを理解した上で、実際に統計ソフトRを使用して、データ分析を行うことが可能になることである。	
教科書	『Rで学ぶ統計データ分析』 オーム社	
特記		
授業計画	1	ガイダンス及びRのインストール
	2	Rの操作方法
	3	記述統計
	4	相関
	5	確率変数と確率分布
	6	推測統計
	7	仮説検定①
	8	仮説検定②
	9	単回帰分析①
	10	単回帰分析②
	11	重回帰分析①
	12	重回帰分析②
	13	一般化線形モデル
	14	多項ロジットモデル
	15	主要ポイントのまとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	経営情報論
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	1年次
開講区分	前期
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	2単位
授業回数	15回
授業概要	本授業の目的は、経営学の視点からDX、ICT、ビッグデータ等の技術革新が企業経営にどのような影響を及ぼしているのか、そして、どのように活用されているのかという点を理論と実際の双方から学修することにある。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	到達目標は、経営情報論の基礎的理論を理解した上で、経営情報システムがどのように発展し、技術が進展してきたのか、また、情報技術が組織のコミュニケーションに与えた意義等を他者に説明できるようになることである。
教科書	『経営情報学入門』 放送大学教育振興会
特記	
授業計画	1 経営情報学という学問領域
	2 組織と情報処理
	3 組織のコミュニケーション
	4 経営戦略と情報活用
	5 組織における知識の創造と活用
	6 情報システムと組織変革
	7 経営情報システムの基礎
	8 経営情報システムの進展
	9 経営情報システムの開発と管理
	10 経営情報におけるサイバーセキュリティ
	11 ネットビジネスの展開
	12 会計情報の入手と利用
	13 情報活用と社会
	14 人と技術の融合
	15 経営情報学入門総括
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	金融論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次及び2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、証券化や投資信託、直接型・間接型の金融商品等の難解な現代における金融の仕組みを理解した上で、金融機関の意義、金融政策、金融規制等の政策のあり方を学修することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、金融の役割や理論と実務の関連性を十分に理解し、金融市場における機能性と仕組みについて自分の言葉で他者に説明できることである。	
教科書	『ベーシックプラス 金融論』 中央経済社	
特記		
授業計画	1	金融論で何を学ぶか
	2	貨幣
	3	金利
	4	金融政策のためのマクロ経済学
	5	金融政策の課題と日本銀行
	6	金融政策の基本手段と新しい展開
	7	金融システムと金融仲介機関の役割
	8	銀行以外の金融機関
	9	金融システムの安定化のための政策
	10	金融機関の破綻への対応策
	11	金融市場に関する規制
	12	間接金融型の金融商品
	13	直接金融型の金融商品
	14	ファイナンスの基礎理論①
	15	ファイナンスの基礎理論②
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	流通システム論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次及び2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、小売業、卸売業等の流通システムを構成する各種企業の活動について、具体的事例を踏まえながら、その流通システムの構造と発展に係る理論的体系を学修することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、商的流通、物的流通機能、情報流通機能とその流通を支える補助的流通機能の意義、小売のシステムと卸売のシステムを理解するとともに、他者に説明できるようになることである。	
教科書	『商学入門』 中央経済社	
特記		
授業計画	1	商人の活動とその展開
	2	商業・流通・マーケティング
	3	流通機能と流通機構
	4	商的流通
	5	物的流通機能
	6	情報流通機能
	7	補助的流通機能
	8	小売機構と小売形態
	9	小売集積と小売の変化
	10	卸売機構と卸売形態
	11	卸売市場と卸売の変化
	12	生産者と商業・流通
	13	消費者と商業・流通
	14	社会と商業・流通
	15	総復習
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	イノベーション論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次及び2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、イノベーションとはどのようなもので、企業経営においてどのような役割を果たすのかということ、新製品開発や組織、経営戦略、製品アーキテクチャ、価値創造等の多角的視点から理解し、理論的に思考できることにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、イノベーションが経済的価値を生み出す源泉であるということを前提に、新しいものを生み出す思考やその過程について、事例等を通じて理解するとともに、内部・外部の環境変化への対応が可能となる知識を修得することである。	
教科書	『イノベーション・マネジメント』 中央経済社	
特記		
授業計画	1	イノベーションの歴史
	2	イノベーションの源泉
	3	イノベーションの発生・普及
	4	イノベーションのダイナミクス
	5	イノベーションと組織
	6	イノベーションと経営戦略①
	7	イノベーションと経営戦略②
	8	イノベーションと新製品開発
	9	イノベーションと製品アーキテクチャ
	10	オープン・イノベーション
	11	サービス・イノベーション
	12	イノベーションと知財管理
	13	価値創造①
	14	価値創造②
	15	総復習
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	消費者行動論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次及び2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、消費者の多様性を理解した上で、消費者心理と行動における基本的な理論や枠組みについて、体系的な知識を修得することにある。具体的には、購買動機、ブランド選択等のマーケティングを行うにあたって不可欠となる消費者の行動分析について、戦略的アプローチのみならず、心理学的アプローチを含めて学修をしていく。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、消費者認知・消費者態度・消費者行動という3つの基軸を前提に、消費者行動論における基本的な理論や分析のための枠組みについて、身の回りの事例を通じて、理解を深め、自分の言葉で他者に説明できるようになることである。	
教科書	『消費者行動論』 有斐閣	
特記		
授業計画	1	消費者行動分析の基本フレーム①(消費者行動とマーケティング)
	2	消費者行動分析の基本フレーム②(消費者行動の分析フレーム)
	3	消費者行動分析の基本フレーム③(消費者行動研究の系譜)
	4	環境要因の変化と消費者行動①(消費行動と消費パターンの分析)
	5	環境要因の変化と消費者行動②(消費者行動の変化とその諸相)
	6	消費者情報処理の分析フレーム①(情報処理のメカニズム)
	7	消費者情報処理の分析フレーム②(情報処理の動機づけ)
	8	消費者情報処理の分析フレーム③(情報処理の能力)
	9	購買意思決定プロセスと情報処理①(購買意思決定の分析)
	10	購買意思決定プロセスと情報処理②(購買前の情報処理)
	11	購買意思決定プロセスと情報処理③(購買時の情報処理)
	12	購買意思決定プロセスと情報処理④(購買後の情報処理)
	13	消費者行動分析の応用①(消費者の購買意思決定プロセスとマーケティング)
	14	消費者行動分析の応用②(購買意思決定の特性とマーケティング)
	15	消費者行動分析の応用③(ブランド構築と統合型マーケティングコミュニケーション)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	現代商品論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次及び2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、商品論（商品学）とは何かを考察した上で、現代における商品の意義や特徴について学修することにある。具体的には、モノ型商品とサービス型商品という商品の概念を明らかにし、現代商品における特性、品質構造、価格、標準化競争、商品のコモディティ化等を体系的に理解することを目的とする。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、商品の概念や特性、商品論(商品学)における基礎理論を理解するとともに、自分の言葉で他者に説明ができることである。	
教科書	『現代商品論』 白桃書房	
特記		
授業計画	1	現代の商品市場と商品研究
	2	商品の概念
	3	商品の品質と価格
	4	商品研究の史的変遷
	5	標準化と商品の価値
	6	市場の課題と商品開発
	7	商品デザインとパッケージ
	8	サービス経済における商品
	9	商品と市場の安全性
	10	ライフスタイルと消費行動
	11	ブランドの価値と役割
	12	商品と環境、そして環境コミュニケーション
	13	少子高齢社会における商品、市場創造
	14	商品と社会
	15	総復習
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	経営学史	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次及び2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、経営学の系譜を考える上で、歴史的に重要性が高いものと位置付けられる主要な経営学説について、その時代背景とともに生み出された問題意識に着眼点を置きながら理解をしていくことで、現代の企業経営における課題を解決するための技法を得ることにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、主要な経営学説を確認し、理解した上で、その経営学説が生み出された時代背景とともに説明できることである。	
教科書	『マネジメントの歴史』 文真堂	
特記		
授業計画	1	企業と管理（経済学と経営学）
	2	経営実践の革新①（ビジネスの国アメリカ）
	3	経営実践の革新②（ビジネスの国アメリカ）
	4	テイラーによる「科学的管理」①（計画による統制）
	5	テイラーによる「科学的管理」②（計画による統制）
	6	ファヨールによる「管理一般の理論」①（管理過程による統制）
	7	ファヨールによる「管理一般の理論」②（管理過程による統制）
	8	科学的管理から人事管理へ①
	9	科学的管理から人事管理へ②
	10	ビッグ・ビジネスの経営と管理の革新①（フォードとGM）
	11	ビッグ・ビジネスの経営と管理の革新②（フォードとGM）
	12	「管理の科学」の発展と会社革命①
	13	「管理の科学」の発展と会社革命②
	14	現代組織論の成立と展開
	15	組織と市場（意思決定・環境適応・環境認識）
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	産業システム論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	1年次及び2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、経済学理論を応用して、企業における意思決定や産業構造に関する考察方法を理解することにある。具体的には、ミクロ経済学を個別市場や産業に応用して、消費者並びに生産者の行動を分析する学問分野であり、社会全体で考えた場合に、製品開発、生産、販売等が望ましい状況下にあるのかを評価するための基礎理論を学修する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、経済学理論を応用して企業行動を分析・評価し、他者に説明できることである。	
教科書	『プラクティカル産業組織論』 有斐閣	
特記		
授業計画	1	産業組織論の課題と歴史
	2	産業組織分析の基礎
	3	独占企業の価格設定
	4	自然独占と規制
	5	参入の経済効果
	6	ゲーム理論の基礎
	7	寡占市場の理論
	8	カルテル
	9	市場支配力，集中度と市場画定
	10	合併と企業結合規制①
	11	合併と企業結合規制②
	12	戦略的行動と市場の独占化①
	13	戦略的行動と市場の独占化②
	14	垂直的な統合と制限①
	15	垂直的な統合と制限②
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ビジネスマナー	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	必修	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	30回	
授業概要	ビジネス電話対応や接客、接遇に関するルールを学習する	
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る	
達成目標	企業内で必要とされる基本的なマナーを習得する	
教科書	オリジナルテキスト・レジュメ	
特記		
授業計画	1	学校と職場の違い
	2	職場のマナー
	3	仕事の進め方
	4	報告、連絡、相談
	5	挨拶
	6	笑顔、お辞儀
	7	敬語①
	8	敬語②
	9	応対の基本①
	10	応対の基本②
	11	電話応対①
	12	電話応対②
	13	電話応対③
	14	電話応対④
	15	電話応対⑤
	16	効果測定①
	17	効果測定②
	18	接遇マナー①
	19	接遇マナー②
	20	接遇マナー③
	21	接客マナー①
	22	接客マナー②
	23	営業マナー①
	24	営業マナー②
	25	商品説明①
	26	商品説明②
	27	クレーム対応
	28	社会人マナー①
	29	社会人マナー②
	30	社会人マナー③
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技・筆記による効果測定	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	パソコン実習 I	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1 単位	
授業回数	15回	
授業概要	Excelの資料作成、作業スピードを向上するテクニックを習得する	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識及びスキルの定着を図る	
達成目標	Excelの実践的なテクニックを習得することで、業務の時短に繋がる仕事術を身につける	
教科書	外販テキスト	
特記		
授業計画	1	時短に効くショートカットキー
	2	入力の時短①
	3	入力の時短②
	4	入力の時短③
	5	入力の時短④
	6	二度手間を防ぐ①
	7	二度手間を防ぐ②
	8	二度手間を防ぐ③
	9	集計作業効率化①
	10	集計作業効率化②
	11	集計作業効率化③
	12	関数による計算・判定①
	13	関数による計算・判定②
	14	実例演習
	15	確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	パソコン実習Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	Excelの資料作成、作業スピードを向上するテクニックを習得する	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識及びスキルの定着を図る	
達成目標	Excelの実践的なテクニックを習得することで、業務の時短に繋がる仕事術を身につける	
教科書	外販テキスト	
特記		
授業計画	1	データの整理・集計①
	2	データの整理・集計②
	3	データの整理・集計③
	4	表の作成①
	5	表の作成②
	6	表の作成③
	7	グラフの作成・修正①
	8	グラフの作成・修正②
	9	グラフの作成・修正③
	10	印刷操作①
	11	印刷操作②
	12	印刷操作③
	13	実例演習①
	14	実例演習②
	15	確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	パソコン実習Ⅲ	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	応用的な機能を活用した文書作成や複雑なデータ集計を行うスキル習得のための実習	
授業の進め方	反復練習と確認テストにより、確実な知識とスキルの定着を図る	
達成目標	様々な文書作成スキルや実用的なスキルを身につける	
教科書	外販テキスト	
特記		
授業計画	1	Word文書の作成①
	2	Word文書の作成②
	3	Word文書の作成③
	4	Word文書の作成④
	5	Word文書の作成⑤
	6	Excel文書の作成①
	7	Excel文書の作成②
	8	Excel文書の作成③
	9	Excel文書の作成④
	10	Excel文書の作成⑤
	11	Excel文書の作成⑥
	12	Excel文書の作成⑦
	13	Word&Excel混在文書の作成①
	14	Word&Excel混在文書の作成②
	15	確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	英会話入門	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1 単位	
授業回数	15回	
授業概要	日常生活での簡単な英会話を事例をもとに学習する	
授業の進め方	反復練習と効果測定により、確実な知識とスキルの定着を図る	
達成目標	日常生活での簡単な英会話を習得する	
教科書	外販テキスト	
特記		
授業計画	1	自己紹介など①
	2	自己紹介など②
	3	趣味など①
	4	趣味など②
	5	健康や習慣など①
	6	健康や習慣など②
	7	場所と道案内など①
	8	場所と道案内など②
	9	説明の仕方など①
	10	説明の仕方など②
	11	目標や夢など①
	12	目標や夢など②
	13	演習①
	14	演習②
	15	効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 筆記・実技による効果測定	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	一般教養Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	前期	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける	
授業の進め方	問題演習による試験対策	
達成目標	一般社会生活で使用される頻度の高い常用漢字の読み書きができる	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	訓読み・送り仮名①
	2	訓読み・送り仮名②
	3	熟語①
	4	熟語②
	5	熟語③
	6	異字同訓・同音異義
	7	誤字訂正①
	8	誤字訂正②・類義語
	9	反対語
	10	漢字の意味・使い方①
	11	漢字の意味・使い方②
	12	項目別模擬試験①
	13	項目別模擬試験②
	14	直前模擬試験①
	15	直前模擬試験②
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における科目解答状況	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ビジネス教養Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
単位数	1単位	
授業回数	15回	
授業概要	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う	
授業の進め方	問題集に基づき、指定された範囲の問題を電卓にて計算する	
達成目標	電卓技能の向上を目的とする	
教科書	検定対策テキストおよび問題集	
特記		
授業計画	1	小数点以下の取り扱い諸注意
	2	電卓演習①
	3	電卓演習②
	4	電卓演習③
	5	電卓演習④
	6	電卓演習⑤
	7	電卓演習⑥
	8	電卓演習⑦
	9	電卓演習⑧
	10	電卓演習⑨
	11	電卓演習⑩
	12	電卓演習⑪
	13	電卓演習⑫
	14	電卓演習⑬
	15	効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	効果測定100% 実技による効果測定	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	Word基礎	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1 単位	
授業回数	15回	
授業概要	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識及びスキルの定着を図る	
達成目標	テキストを確認しながら練習問題を解くことが出来る操作力を身につける	
教科書	外販テキスト	
特記		
授業計画	1	文章の作成と管理①
	2	文章の作成と管理②
	3	文章の作成と管理③
	4	文章の作成と管理④
	5	文字、段落、セクションの書式設定①
	6	文字、段落、セクションの書式設定②
	7	文字、段落、セクションの書式設定③
	8	表やリストの作成①
	9	表やリストの作成②
	10	表やリストの作成③
	11	参考資料の作成と管理①
	12	参考資料の作成と管理②
	13	グラフィック要素の挿入と書式設定①
	14	グラフィック要素の挿入と書式設定②
	15	確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	マーケティング概論	
実務家教員	○	
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	30回	
授業概要	マーケティングの必要性和目的を学習する	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	マーケティングの知識を体系的に習得する	
教科書	オリジナルテキスト、外販テキスト	
特記	実務家教員・・・流通小売業を行なっている企業に勤務していた実務家	
授業計画	1	マーケティングと顧客満足
	2	マーケティング分析方法①
	3	マーケティング分析方法②
	4	マーケティングと財務知識①
	5	マーケティングと財務知識②
	6	マーケティングと財務知識③
	7	マーケティングと財務知識④
	8	マーケティング手法①
	9	マーケティング手法②
	10	確認テスト
	11	事例から学ぶマーケティング①
	12	事例から学ぶマーケティング②
	13	事例から学ぶマーケティング③
	14	事例から学ぶマーケティング④
	15	事例から学ぶマーケティング⑤
	16	事例から学ぶマーケティング⑥
	17	事例から学ぶマーケティング⑦
	18	事例から学ぶマーケティング⑧
	19	事例から学ぶマーケティング⑨
	20	事例から学ぶマーケティング⑩
	21	マーケティング演習①
	22	マーケティング演習②
	23	マーケティング演習③
	24	マーケティング演習④
	25	マーケティング演習⑤
	26	マーケティング演習⑥
	27	マーケティング演習⑦
	28	マーケティング演習⑧
	29	マーケティング演習⑨
	30	マーケティング演習⑩
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	卒業研究・発表	
実務家教員	○	
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
単位数	2単位	
授業回数	30回	
授業概要	実店舗を題材にして、課題に対する改善案を提案し発表する	
授業の進め方	各種資料による講義とディスカッションを通じ、専門的な知識と思考の定着を図る	
達成目標	マーケティングの知識を活かし、現状に即した企画案を作成する	
教科書	オリジナルテキスト、外販テキスト	
特記	実務家教員・・・流通小売業を行なっている企業に勤務していた実務家	
授業計画	1	企画作成①
	2	企画作成②
	3	企画作成③
	4	企画作成④
	5	企画作成⑤
	6	中間発表①
	7	中間発表②
	8	企画のブラッシュアップ①
	9	企画のブラッシュアップ②
	10	企画のブラッシュアップ③
	11	企画のブラッシュアップ④
	12	企画のブラッシュアップ⑤
	13	企画のブラッシュアップ⑥
	14	企画のブラッシュアップ⑦
	15	企画のブラッシュアップ⑧
	16	オンラインプレゼン方法①
	17	オンラインプレゼン方法②
	18	オンラインプレゼン方法③
	19	企画のブラッシュアップ⑨
	20	企画のブラッシュアップ⑩
	21	企画のブラッシュアップ⑪
	22	企画のブラッシュアップ⑫
	23	企画のブラッシュアップ⑬
	24	企画のブラッシュアップ⑭
	25	企画のブラッシュアップ⑮
	26	企画のブラッシュアップ⑯
	27	企画発表（校内）①
	28	企画発表（校内）②
	29	企画発表（企業向け）①
	30	企画発表（企業向け）②
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、授業内レポートの完成度	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	卒業前特別講座	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
単位数	1 単位	
授業回数	15回	
授業概要	社会人として必要な考え方やスキルを学ぶ	
授業の進め方	様々な業界の方からの講演を聞く	
達成目標	講演、講座、研修を通じて、自身の将来の姿をイメージすることができる	
教科書	レジュメ	
特記		
授業計画	1	キャリア講演会①
	2	敬語講座①
	3	ビジネスマナー研修①
	4	キャリア講演会②
	5	キャリア講演会③
	6	敬語講座②
	7	ビジネスマナー研修②
	8	キャリア講演会④
	9	キャリア講演会⑤
	10	敬語講座③
	11	ビジネスマナー研修③
	12	キャリア講演会⑥
	13	キャリア講演会⑦
	14	敬語講座④
	15	振り返り
成績評価方法 (試験実施方法)	平常点100% 授業への参加姿勢、授業内レポートの完成度	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容		
授業科目	FP基礎		
実務家教員			
学部・学科	情報ビジネス学科		
履修年次	2年次		
開講区分	前期		
科目区分	選択		
授業方法	講義及び演習		
単位数	5単位		
授業回数	60回		
授業概要	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける		
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る		
達成目標	F P 3級の基礎を理解し、日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける		
教科書	外販テキスト		
特記			
授業計画	1	ライフプランニングと資金計画①	31 タックスプランニング①
	2	ライフプランニングと資金計画②	32 タックスプランニング②
	3	ライフプランニングと資金計画③	33 タックスプランニング③
	4	ライフプランニングと資金計画④	34 タックスプランニング④
	5	ライフプランニングと資金計画⑤	35 タックスプランニング⑤
	6	ライフプランニングと資金計画⑥	36 タックスプランニング⑥
	7	ライフプランニングと資金計画⑦	37 タックスプランニング⑦
	8	ライフプランニングと資金計画⑧	38 タックスプランニング⑧
	9	ライフプランニングと資金計画⑨	39 タックスプランニング⑨
	10	ライフプランニングと資金計画⑩	40 タックスプランニング⑩
	11	ライフプランニングと資金計画⑪	41 タックスプランニング⑪
	12	ライフプランニングと資金計画⑫	42 タックスプランニング⑫
	13	リスク管理①	43 不動産①
	14	リスク管理②	44 不動産②
	15	リスク管理③	45 不動産③
	16	リスク管理④	46 不動産④
	17	リスク管理⑤	47 不動産⑤
	18	リスク管理⑥	48 不動産⑥
	19	リスク管理⑦	49 不動産⑦
	20	リスク管理⑧	50 不動産⑧
	21	リスク管理⑨	51 不動産⑨
	22	金融資産運用①	52 相続・事業承継①
	23	金融資産運用②	53 相続・事業承継②
	24	金融資産運用③	54 相続・事業承継③
	25	金融資産運用④	55 相続・事業承継④
	26	金融資産運用⑤	56 相続・事業承継⑤
	27	金融資産運用⑥	57 相続・事業承継⑥
	28	金融資産運用⑦	58 相続・事業承継⑦
	29	金融資産運用⑧	59 相続・事業承継⑧
	30	金融資産運用⑨	60 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況		
備考			

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	FP応用
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	前期
科目区分	選択
授業方法	演習
単位数	3単位
授業回数	30回
授業概要	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、知識定着を図る
達成目標	問題演習によりFP3級の基礎知識を定着させる
教科書	外販テキスト
特記	
授業計画	1 ライフプランニングと資金計画問題演習①
	2 ライフプランニングと資金計画問題演習②
	3 ライフプランニングと資金計画問題演習③
	4 ライフプランニングと資金計画問題演習④
	5 ライフプランニングと資金計画問題演習⑤
	6 ライフプランニングと資金計画問題演習⑥
	7 リスク管理問題演習①
	8 リスク管理問題演習②
	9 リスク管理問題演習③
	10 リスク管理問題演習④
	11 金融資産運用問題演習①
	12 金融資産運用問題演習②
	13 金融資産運用問題演習③
	14 金融資産運用問題演習④
	15 タックスプランニング問題演習①
	16 タックスプランニング問題演習②
	17 タックスプランニング問題演習③
	18 タックスプランニング問題演習④
	19 タックスプランニング問題演習⑤
	20 タックスプランニング問題演習⑥
	21 不動産問題演習①
	22 不動産問題演習②
	23 不動産問題演習③
	24 不動産問題演習④
	25 不動産問題演習⑤
	26 相続・事業承継問題演習①
	27 相続・事業承継問題演習②
	28 相続・事業承継問題演習③
	29 相続・事業承継問題演習④
	30 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容			
授業科目	FP総合			
実務家教員				
学部・学科	情報ビジネス学科			
履修年次	2年次			
開講区分	前期			
科目区分	選択			
授業方法	演習			
単位数	4単位			
授業回数	45回			
授業概要	「お金」に関する総合的な知識を深め、経済社会との関係性を理解する			
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る			
達成目標	FP3級に合格できるレベルの知識を身につける			
教科書	外販テキスト			
特記				
授業計画	1	過去問研究①	31	直前答案練習①
	2	過去問研究②	32	直前答案練習②
	3	過去問研究③	33	直前答案練習③
	4	過去問研究④	34	直前答案練習④
	5	過去問研究⑤	35	直前答案練習⑤
	6	過去問研究⑥	36	直前答案練習⑥
	7	過去問研究⑦	37	直前答案練習⑦
	8	過去問研究⑧	38	直前答案練習⑧
	9	過去問研究⑨	39	直前答案練習⑨
	10	過去問研究⑩	40	直前答案練習⑩
	11	過去問研究⑪	41	直前答案練習⑪
	12	過去問研究⑫	42	直前答案練習⑫
	13	過去問研究⑬	43	直前答案練習⑬
	14	過去問研究⑭	44	直前答案練習⑭
	15	過去問研究⑮	45	直前答案練習⑮
	16	過去問研究⑯		
	17	過去問研究⑰		
	18	過去問研究⑱		
	19	過去問研究⑲		
	20	過去問研究⑳		
	21	過去問研究㉑		
	22	過去問研究㉒		
	23	過去問研究㉓		
	24	過去問研究㉔		
	25	過去問研究㉕		
	26	過去問研究㉖		
	27	過去問研究㉗		
	28	過去問研究㉘		
	29	過去問研究㉙		
	30	過去問研究㉚		
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における科目解答状況			
備考				

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	経理実務	
実務家教員	○	
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	20回	
授業概要	経理実務で必要となる業務内容を体系的に学び、知識を習得するための講義	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	経理実務の年間業務スケジュールと業務内容の理解ができる	
教科書	オリジナルテキスト	
特記	実務家教員・・・経理業務の代行サービス、コンサルティングなどを行なっている企業に勤務している実務家	
授業計画	1	経理・総務の年間カリキュラム
	2	小切手・手形の実務上のポイント
	3	入出金伝票と現金出納帳
	4	当座預金出納帳と手形記入帳
	5	交際費、福利厚生費及び会議費用の区分
	6	健康保険、厚生年金保険の概要及び会計処理①
	7	健康保険、厚生年金保険の概要及び会計処理②
	8	源泉所得税（給与）の徴収・納付事務①
	9	源泉所得税（給与）の徴収・納付事務②
	10	源泉所得税（報酬）の徴収・納付事務（基礎）①
	11	源泉所得税（報酬）の徴収・納付事務（基礎）②
	12	源泉所得税（報酬）の徴収・納付事務（応用）①
	13	源泉所得税（報酬）の徴収・納付事務（応用）②
	14	個人住民税の徴収及び納付
	15	印紙税の基礎知識
	16	受取利息の会計処理
	17	消費税法の概要
	18	消費税の会計処理
	19	原則的な日々の記帳から決算までの流れ（記帳入門）
	20	確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	給与計算実務
実務家教員	○
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	後期
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	2単位
授業回数	15回
授業概要	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務に必要な知識を習得する講義
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	所得税・住民税額を算定し、年末調整事務で必要となる所得税源泉徴収簿の記入ができる
教科書	オリジナルテキスト
特記	実務家教員・・・経理業務の代行サービス、コンサルティングなどを行なっている企業に勤務している実務家
授業計画	1 所得税の基礎知識①
	2 所得税の基礎知識②
	3 所得税の基礎知識③
	4 年末調整のしかた①
	5 年末調整のしかた②
	6 年末調整のしかた③
	7 法定調書の流れ①
	8 法定調書の流れ②
	9 法定調書の流れ③
	10 個人住民税の特別徴収のための給与支払報告書の提出①
	11 個人住民税の特別徴収のための給与支払報告書の提出②
	12 個人住民税の特別徴収のための給与支払報告書の提出③
	13 労働保険の概要及び会計処理①
	14 労働保険の概要及び会計処理②
	15 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容		
授業科目	財務会計		
実務家教員			
学部・学科	情報ビジネス学科		
履修年次	2年次		
開講区分	後期		
科目区分	選択		
授業方法	講義及び演習		
単位数	2単位		
授業回数	20回		
授業概要	財務諸表の作成に関する知識と技術を身につけ、財務会計の意義や制度を理解するための講義		
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身につく」へステップアップを図る		
達成目標	財務会計の意義や制度を深く理解し、財務諸表の作成及び会計情報を提供・活用できる		
教科書	オリジナルテキスト		
特記			
授業計画	1	外貨建会計①	
	2	外貨建会計②	
	3	外貨建会計③	
	4	リース取引①	
	5	リース取引②	
	6	リース取引③	
	7	キャッシュ・フロー計算書①	
	8	キャッシュ・フロー計算書②	
	9	キャッシュ・フロー計算書③	
	10	税効果会計①	
	11	税効果会計②	
	12	税効果会計③	
	13	退職給付会計①	
	14	退職給付会計②	
	15	退職給付会計③	
	16	消費税法①	
	17	消費税法②	
	18	法人税法①	
	19	法人税法②	
	20	確認テスト	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況		
備考			

授業概要（シラバス）

タイトル	内容		
授業科目	販売知識基礎		
実務家教員			
学部・学科	情報ビジネス学科		
履修年次	2年次		
開講区分	通年		
科目区分	選択		
授業方法	講義		
単位数	3単位		
授業回数	30回		
授業概要	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、マネジメントの知識を理解する		
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る		
達成目標	モノやサービスが売れる仕組みについての知識を身につける		
教科書	外販テキスト		
特記			
授業計画	1	販売員の役割①	
	2	販売員の役割②	
	3	販売員の法廷知識①	
	4	販売員の法廷知識②	
	5	販売員の法廷知識③	
	6	小売業の計数管理①	
	7	小売業の計数管理②	
	8	小売業の計数管理③	
	9	店舗管理①	
	10	店舗管理②	
	11	店舗管理③	
	12	流通における小売業①	
	13	流通における小売業②	
	14	流通における小売業③	
	15	組織形態別小売業①	
	16	組織形態別小売業②	
	17	組織形態別小売業③	
	18	店舗形態別小売業①	
	19	店舗形態別小売業②	
	20	店舗形態別小売業③	
	21	商業集積①	
	22	商業集積②	
	23	商業集積③	
	24	小売業のマーケティング①	
	25	小売業のマーケティング②	
	26	小売業のマーケティング③	
	27	顧客満足経営①	
	28	顧客満足経営②	
	29	顧客満足経営③	
	30	確認テスト	
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況		
備考			

授業概要（シラバス）

タイトル	内容			
授業科目	販売知識応用			
実務家教員				
学部・学科	情報ビジネス学科			
履修年次	2年次			
開講区分	後期			
科目区分	選択			
授業方法	講義及び演習			
単位数	3単位			
授業回数	25回			
授業概要	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する			
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る			
達成目標	リテールマーケティング検定3級レベルの知識を理解し身につける			
教科書	外販テキスト			
特記				
授業計画	1	証券の設定と出店①		
	2	証券の設定と出店②		
	3	リージョナルプロモーション①		
	4	リージョナルプロモーション②		
	5	顧客志向型売り場づくり①		
	6	顧客志向型売り場づくり②		
	7	ストアオペレーション①		
	8	ストアオペレーション②		
	9	梱包技術①		
	10	梱包技術②		
	11	ディスプレイ①		
	12	ディスプレイ②		
	13	商品①		
	14	商品②		
	15	マーチャンダイジング①		
	16	マーチャンダイジング②		
	17	マーチャンダイジング③		
	18	商品計画①		
	19	商品計画②		
	20	販売計画及び仕入れ計画①		
	21	販売計画及び仕入れ計画②		
	22	価格設定①		
	23	在庫管理①		
	24	販売管理①		
	25	確認テスト		
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況			
備考				

授業概要（シラバス）

タイトル	内容			
授業科目	ITパスポート基礎			
実務家教員				
学部・学科	情報ビジネス学科			
履修年次	2年次			
開講区分	通年			
科目区分	選択			
授業方法	講義			
単位数	4単位			
授業回数	33回			
授業概要	情報技術の基礎となる考え方・仕組み・専門用語を理解する			
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る			
達成目標	社会人として必要な情報技術の専門用語の習得を目的とする			
教科書	オリジナルテキスト			
特記				
授業計画	1	企業活動	31	セキュリティ②
	2	法務	32	総復習
	3	経営戦略マネジメント	33	確認テスト
	4	技術戦略マネジメント		
	5	ビジネスインダストリ		
	6	システム戦略		
	7	システム企画		
	8	システム開発技術		
	9	ソフトウェア開発管理技術		
	10	プロジェクトマネジメント		
	11	サービスマネジメント		
	12	システム監査①		
	13	システム監査②		
	14	基礎理論①		
	15	基礎理論②		
	16	アルゴリズムとプログラミング①		
	17	アルゴリズムとプログラミング②		
	18	コンピュータ構成要素①		
	19	コンピュータ構成要素②		
	20	システム構成要素①		
	21	システム構成要素②		
	22	ソフトウェア		
	23	ハードウェア		
	24	ヒューマンインターフェース		
	25	マルチメディア		
	26	データベース①		
	27	データベース②		
	28	ネットワーク①		
	29	ネットワーク②		
	30	セキュリティ①		
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況			
備考				

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ITパスポート・リテラシ演習	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	演習	
単位数	1 単位	
授業回数	9 回	
授業概要	情報技術の考え方・仕組み・専門用語を問題演習を通じて学ぶ	
授業の進め方	問題演習と復習演習を行い、知識定着を図る	
達成目標	基本的な情報技術知識の習得を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	ITリテラシ演習①
	2	ITリテラシ演習②
	3	ITリテラシ演習③
	4	ITリテラシ演習④
	5	ITパスポート演習①
	6	ITパスポート演習②
	7	ITパスポート演習③
	8	ITパスポート演習④
	9	ITパスポート演習⑤
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	ITパスポート応用	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	1 単位	
授業回数	1 3 回	
授業概要	基礎レベルではやや難しい情報技術の考え方を問題演習を通じて学ぶ	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	ITパスポートレベルの情報技術知識の習得を目的とする	
教科書	オリジナルテキスト	
特記		
授業計画	1	ITパスポート総まとめ①
	2	ITパスポート総まとめ②
	3	ITパスポート総まとめ③
	4	ITパスポート総まとめ④
	5	ITパスポート総まとめ⑤
	6	ITパスポート総まとめ⑥
	7	ITパスポート総合問題対策①
	8	ITパスポート総合問題対策②
	9	ITパスポート総合問題対策③
	10	ITパスポート総合問題対策④
	11	ITパスポート総合問題対策⑤
	12	ITパスポート総合問題対策⑥
	13	ITパスポート総合問題対策⑦
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験100% 講義後のチェックテストの解答状況	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	リーダーシップ論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	<p>本授業の目的は、既存のリーダーシップ研究に基づいた様々なアプローチ手法を理解し、リーダーシップの基本的な知識を修得することにある。複雑かつ多様性が重視される環境下において、リーダーシップの重要性はさらに高まってきており、取るべきリーダーシップの手法も変化してきていることから、根本の部分にある「リーダーシップとは何か」ということについて、成長発達理論等を根拠に理解していく。</p>	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、各種リーダーシップ研究の基礎を理解するとともに、リーダーシップやグループダイナミクスに関する知識を身に付け、実践する方法を思考できることである。	
教科書	『世界標準のリーダーシップ』 総合法令出版	
特記		
授業計画	1	世界標準のリーダーシップとは何か？
	2	世界のリーダーシップ理論研究のトレンド
	3	チームリーダーシップ
	4	デジタルリーダーシップ
	5	リモートリーダーシップ①
	6	リモートリーダーシップ②
	7	ダイバーシティリーダーシップ①
	8	ダイバーシティリーダーシップ②
	9	グローバルリーダーシップ①
	10	グローバルリーダーシップ②
	11	ソーシャルリーダーシップ①
	12	ソーシャルリーダーシップ②
	13	セルフリーダーシップ①
	14	セルフリーダーシップ②
	15	世界標準のリーダーシップに求められる7つの力(マインド&スキル)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	企業倫理と社会的責任	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、企業経営における規律性と適正性を確保するための仕組みであるコーポレートガバナンスを学修する。具体的には、いかに企業不祥事を防止し、企業価値を高め、内部・外部における多数のステークホルダーとの関係を保持し、経営の発展を実現させ、管理していくか等をグローバルな視点や実務の観点を取り入れながら、体系的な理論と知識を修得することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、企業不祥事を防止する方法を知り、コーポレートガバナンスの重要性と企業導入の意義・方法等を理解することで、理論的に説明できるようになることである。	
教科書	『よくわかるコーポレート・ガバナンス』 ミネルヴァ書房	
特記		
授業計画	1	株式会社とは何か／巨大株式会社と会社機関構造(日本・米国・ドイツ)
	2	株式会社と経営者支配／経済の金融化と新制度派経済学
	3	マルチステークホルダー・アプローチ／戦後の経済発展とインサイダー型ガバナンス
	4	企業不祥事とコーポレート・ガバナンス／外部監視とコーポレート・ガバナンス
	5	経営者報酬とコーポレート・ガバナンス／同族企業とコーポレート・ガバナンス
	6	米国のコーポレート・ガバナンスの動向と課題／ドイツのコーポレート・ガバナンスの動向と課題
	7	英国のコーポレート・ガバナンスの動向／北欧のコーポレート・ガバナンスの特徴とその意義
	8	韓国のコーポレート・ガバナンスの動向と課題／中国のコーポレート・ガバナンスの動向と課題
	9	コーポレート・ガバナンスと資本コスト／コーポレート・ガバナンスと事業投資
	10	コーポレート・ガバナンスと資本政策／M&A(合併・買収)とコーポレート・ガバナンス
	11	機関投資家とコーポレート・ガバナンス
	12	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任(CSR)
	13	コーポレート・ガバナンスとESG投資
	14	コーポレート・ガバナンスと社会的企業
	15	コーポレート・ガバナンスと企業倫理
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	マーケティング調査	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、市場分析やセグメンテーション等のマーケティング戦略を策定することができるようになるために、マーケティング調査の基本的意義から、調査課題の設定、質問紙の作成、データ収集、データ分析、報告書の作成の一連の調査過程を体系的かつ実践的に学修することによって、マーケティング調査に関する深い理解を得ることにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、マーケティング調査に係る基本的知識と理論体系を修得し、目的に応じた調査の実行からデータ分析までの手法を身に付けることである。	
教科書	『1からの商品企画』 碩学舎	
特記		
授業計画	1	商品企画
	2	インタビュー法
	3	観察法
	4	リード・ユーザー法
	5	アイデア創出
	6	コンセプト開発
	7	プロトタイプング
	8	市場規模の確認
	9	競合・技術の確認
	10	顧客ニーズの確認
	11	販促提案
	12	価格提案
	13	チャネル提案
	14	企画書作成
	15	プレゼンテーション
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	デジタルマーケティング	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、SNS やインターネット広告等のデジタル技術を活用したデジタルマーケティングの基礎となる理論や概念、戦略、マネジメントを体系的に学修し、特に、企業がインターネット上で実施するマーケティングについて、消費者行動の視点から分析・検討を進めることで、デジタルマーケティングの理解を深めていくことにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、マーケティングの知識と理論を基盤に、デジタルマーケティングの基本概念と技術を修得するとともに、実際のマネジメントプロセスにおける課題に対して、目的にあった手段を活用できるようになることである。	
教科書	『1からのデジタル・マーケティング』 碩学社	
特記		
授業計画	1	デジタル社会のマーケティング(アマゾンの事例)
	2	デジタル社会の消費者行動(食バログの事例)
	3	デジタル社会のビジネスモデル(メルカリの事例)
	4	デジタル・マーケティングの基本概念(無印良品の事例)
	5	製品戦略の基本(アップルの事例)
	6	製品戦略の拡張(レゴの事例)
	7	価格戦略の基本(ANAの事例)
	8	価格戦略の拡張(エアビーアンドビー)
	9	チャネル戦略の基本(ユニクロの事例)
	10	チャネル戦略の拡張(ウーバーの事例)
	11	プロモーション戦略の基本(ローソンクルーの事例)
	12	プロモーション戦略の拡張(トリップアドバイザーの事例)
	13	デジタル社会のリサーチ(グーグルの事例)
	14	デジタル社会のロジスティックス(ヤマト運輸の事例)
	15	デジタル社会の情報システム(セールスフォースドットコム事例)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	卒業論文 I
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	通年
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	2単位
授業回数	15回
授業概要	本授業の目的は、卒業論文の制作のための研究テーマの設定方法、実行可能な研究計画の立て方、適切な調査・研究方法を順次確認しながら作業と考察を進め、構想・準備を行い、論文の執筆、完成に至るまでのスキルを修得することにある。本授業(卒業論文 I)では、論題設定の動機・内容・構成・参考文献などを具体的に提示し、それに対して、担当教員が助言等を行う。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	本授業の到達目標は、卒業研究についての知識と実施のスキルを身に付け、説得的・論理的な論文を書くことができるようになることである。
教科書	『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版、『論文の教室（レポートから卒論まで）』 NHK出版
特記	
授業計画	1 卒業論文執筆のためのガイダンス
	2 卒業論文の要件と構成
	3 テーマ・問題の設定、本文の組み立て方
	4 注、引用、文献表の付け方
	5 研究倫理
	6 先行研究の紹介①
	7 先行研究の紹介②
	8 先行研究の紹介③
	9 研究領域を決定する
	10 研究課題を選定するための先行研究の調査
	11 研究課題(テーマ)の決定
	12 研究計画書の立て方
	13 研究計画書の作成
	14 データ等の収集
	15 論文要旨の提出
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	卒業論文Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、卒業論文の制作のための研究テーマの設定方法、実行可能な研究計画の立て方、適切な調査・研究方法を順次確認しながら作業と考察を進め、構想・準備を行い、論文の執筆、完成に至るまでのスキルを修得することにある。本授業(卒業論文Ⅱ)では、自身が設定したテーマの下、研究計画書及び論文要旨を参考にしながら、実際の論文執筆から、完成・提出・評価までの内容となる。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、卒業研究についての知識と実施のスキルを身に付け、説得的・論理的な論文を書くことができるようになることである。	
教科書	『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版、『論文の教室（レポートから卒論まで）』 NHK出版	
特記		
授業計画	1	研究遂行のための調査の実施、文献を読解する①
	2	研究遂行のための調査の実施、文献を読解する②
	3	研究遂行のための調査の実施、文献を読解する③
	4	卒業論文のテーマに即した実証アプローチを考える①
	5	卒業論文のテーマに即した実証アプローチを考える②
	6	卒業論文を執筆する①
	7	卒業論文を執筆する②
	8	卒業論文を執筆する③
	9	執筆した卒業論文を推敲する①
	10	卒業論文を執筆する④
	11	卒業論文を執筆する⑤
	12	卒業論文を執筆する⑥
	13	執筆した卒業論文を推敲する②
	14	卒業論文を完成させる
	15	卒業論文の完成
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	中小企業論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	4単位	
授業回数	30回	
授業概要	本授業の目的は、第一次産業を除く日本企業の 99%超を占める中小企業の日本経済社会における重要基盤としての役割や雇用の創出、資金的・物的・人的支援を通じた地域社会への貢献等を踏まえるとともに、企業存立や中小企業政策、現代の中小企業の課題等を考察しながら学習をしていくことにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、中小企業に係る本質的理解をした上で、中小企業の存立と政策についての理解を深めることである。	
教科書	『よくわかる中小企業』 ミネルヴァ書房	
特記		
授業計画	1	ガイダンス及び中小企業の本質
	2	中小企業の歴史①
	3	中小企業の歴史②
	4	中小企業政策①
	5	中小企業政策②
	6	中小企業経営①
	7	中小企業経営②
	8	中小企業労働の実態①
	9	中小企業労働の実態②
	10	中小企業の情報化①
	11	中小企業の情報化②
	12	下請中小企業①
	13	下請中小企業②
	14	中小企業のネットワーク①
	15	中小企業のネットワーク②
	16	中小製造企業①
	17	中小製造企業②
	18	中小商業・サービス①
	19	中小商業・サービス②
	20	地域中小企業①
	21	地域中小企業②
	22	中小企業の海外展開①
	23	中小企業の海外展開②
	24	中小企業のイノベーション①
	25	中小企業のイノベーション②
	26	中小ベンチャー企業①
	27	中小ベンチャー企業②
	28	総括①
	29	総括②
	30	総括③
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	経営分析論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	4単位	
授業回数	30回	
授業概要	本授業の目的は、財務諸表・各種数量等の定量的情報や業界での地位・業種の状況等の定量的情報を基に、算定された経営指標等によって、企業の経営状態や課題を抽出し、経済的意思決定を行うことができるようになることにある。具体的には、財務諸表分析の手法である安定性分析、収益性分析、生産性分析、成長性分析等が挙げられる。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、各財務数値の意味を十分に理解して、そこから算定した経営指標等により、企業の分析ができることである。	
教科書	『ベーシック経営分析』 中央経済社	
特記		
授業計画	1	ガイダンス及び経営分析の意義と方法①
	2	経営分析の意義と方法②
	3	経営分析の資料
	4	構成比率分析と趨勢比率分析①
	5	構成比率分析と趨勢比率分析②
	6	安全性分析①
	7	安全性分析②
	8	活動性分析①
	9	活動性分析②
	10	収益性分析Ⅰ（売上高利益率と資本利益率①）
	11	収益性分析Ⅰ（売上高利益率と資本利益率②）
	12	収益性分析Ⅰ（売上高利益率と資本利益率③）
	13	生産性分析①
	14	生産性分析②
	15	成長性分析と市場評価分析①
	16	成長性分析と市場評価分析②
	17	収益性分析Ⅱ（損益分岐分析①）
	18	収益性分析Ⅱ（損益分岐分析②）
	19	収益性分析Ⅱ（損益分岐分析③）
	20	収益性分析Ⅲ（利益増減分析①）
	21	収益性分析Ⅲ（利益増減分析②）
	22	収益性分析Ⅲ（利益増減分析③）
	23	キャッシュ・フロー①
	24	キャッシュ・フロー②
	25	分析結果の総合①
	26	分析結果の総合②
	27	分析結果の総合③
	28	総括①
	29	総括②
	30	総括③
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	組織行動論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	<p>本授業の目的は、組織行動における基礎概念を確認した上で、組織を一定の共通目的を持った複数の個人から構成される集団と捉えて理解を深めていくことで、組織や人材マネジメントにおいて必要となる判断力等を身に付けることにある。具体的には、個人と組織の両視点から、組織内の人間の心理や行動について考察し、モチベーション論やリーダーシップ論等を根拠にしなが、組織の中の人間をどのようにマネジメントしていくかを理解していく。</p>	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、組織行動論の体系を理解し、核となる理論を修得することで、実践的知識とスキルを身に付けることである。	
教科書	『組織行動のマネジメント』 ダイヤモンド社	
特記		
授業計画	1	組織行動学とは何か／個人の行動の基礎
	2	パーソナリティと感情
	3	動機づけの基本的なコンセプト
	4	動機づけ：コンセプトから応用へ
	5	個人の意思決定
	6	集団行動の基礎
	7	「チーム」を理解する
	8	コミュニケーション
	9	リーダーシップと信頼の構築
	10	力(パワー)と政治
	11	コンフリクトと交渉
	12	組織構造の基礎
	13	組織文化
	14	人材管理の考え方と方法
	15	組織変革と組織開発
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	生産管理論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、現代の生産管理において重要な要素である Quality(品質)、Cost(コスト)、Delivery(納期)について、バランスを考えながら利益や顧客満足度、企業価値の向上を図るべく、競争力の視点から生産管理における基本的知識と理論体系を学修することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、生産管理の意義や基本的知識、理論を体系的に理解し生産の仕組み全体をマネジメントできるスキルを身に付け、他者に説明できるようになることである。	
教科書	『生産管理の基本』 日本実業出版社	
特記		
授業計画	1	ものづくり企業の競争力①
	2	ものづくり企業の競争力②
	3	大量生産システムの誕生と進化①
	4	大量生産システムの誕生と進化②
	5	品質管理①
	6	品質管理②
	7	コスト管理①
	8	コスト管理②
	9	納期管理①
	10	納期管理②
	11	製品開発の基礎①
	12	製品開発の基礎②
	13	製品開発と競争力①
	14	製品開発と競争力②
	15	総復習
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	戦略的行動論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、ゲーム理論における数多くのケースに触れ、さらには、その応用モデルについて、分析し、解釈できるようになることで、企業間のライバル競争等で見られる戦略的行動を理論的に理解できるようになることにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、ゲーム理論の基礎的理解を以て、現実の様々な現象を経済学的に分析する手段を得た上で、戦略的行動のメカニズムを把握することである。	
教科書	『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』 日本評論社	
特記		
授業計画	1	あるパン屋の話
	2	戦略と均衡
	3	裁量カルールか(展開形表現)
	4	交渉ゲーム
	5	情報とゲーム
	6	オークション
	7	公共財
	8	市場取引
	9	消費者理論
	10	寡占と結託の経済効果
	11	金融とリスク管理
	12	金銭市場と一般均衡
	13	製品差別化
	14	契約と誘因
	15	新たな幕開け
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	リスクマネジメント論
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	通年
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	2単位
授業回数	15回
授業概要	本授業の目的は、リスクマネジメントの基本理論として、基本的なスキームやリスクの特定、リスク分析評価、リスクコントロールとリスクファイナンスを理解するとともに、企業が有するリスク評価と決定に関する重要な要素について理解をすることで、経営戦略リスクマネジメントの実践的な展開方法を修得することにある。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	到達目標は、リスクマネジメントの体系を理解し、リスクの特定、分析と評価、対策検討・選択・決定の一連のプロセスとその重要ポイントが理解できていることである。
教科書	『経営戦略リスクマネジメント』 ミネルヴァ書房
特記	
授業計画	1 理論編①(リスクマネジメントの基本理論①)
	2 理論編②(リスクマネジメントの基本理論②)
	3 理論編③(戦略リスクマネジメントの展開①)
	4 理論編④(戦略リスクマネジメントの展開②)
	5 理論編⑤(戦略リスクとは何か①)
	6 理論編⑥(戦略リスクとは何か②)
	7 理論編⑦(経営戦略とは何か①)
	8 理論編⑧(経営戦略とは何か②)
	9 理論編⑨(意思決定とは何か①)
	10 理論編⑩(意思決定とは何か②)
	11 実践編①(経営戦略リスクマネジメントの展開方法①)
	12 実践編②(経営戦略リスクマネジメントの展開方法②)
	13 実践編③(戦略リスクマネジメントの運用実態①)
	14 実践編④(戦略リスクマネジメントの運用実態②)
	15 実践編⑤(経営戦略リスクマネジメントによる企業価値向上)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	経済学応用	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、経営者への適切なインセンティブづけ、従業員のインセンティブを考慮した組織のデザイン等の情報とインセンティブにまつわる諸問題を経済学の視点で考察し理解することにある。具体的には、インセンティブの経済学や契約理論が扱うモラルハザード、アドバース・セレクション、コミットメントの問題等を中心に学修する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、現実社会における問題について、経済学的思考を以て分析し、理解できることである。	
教科書	『情報とインセンティブの経済学』 有斐閣	
特記		
授業計画	1	情報・インセンティブ・契約概要
	2	リスク・シェアリングの問題(ビジネスのリスクは誰が負担するべき?)
	3	モラル・ハザード：基礎編(真面目に働いてもらうことは難しい?)
	4	モラル・ハザード応用編①(仕事の成果はどう評価すればよい?)
	5	モラル・ハザード応用編②(仕事の成果はどう評価すればよい?)
	6	組織の中のモラル・ハザード①(評価が引き起こす問題とは?)
	7	組織の中のモラル・ハザード②(評価が引き起こす問題とは?)
	8	アドバース・セレクション(隠された情報が引き起こす問題とは?)
	9	シグナリング(隠された情報はどのように伝達するべき?)
	10	スクリーニング(顧客の好みをどうすれば知ることができる?)
	11	コミットメント①(退路を断つことのメリットとは?)
	12	コミットメント②(退路を断つことのメリットとは?)
	13	不完備契約：基礎編(取引相手に足元を見られないためには?)
	14	不完備契約：応用編①(どこまで自社で行うべきか?)
	15	不完備契約：応用編②(どこまで自社で行うべきか?)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	現代会計基準論
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	通年
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	4単位
授業回数	30回
授業概要	本授業の目的は、世界における会計基準の急速な統一化への動きは、近年の会計をめぐる制度的環境の大きな変化の一因となっていることを踏まえ、国際財務報告基準(IFRS)を巡っての日本国内外の動向を概観していくとともに、日本会計基準の各基準の背景と内容を確認しつつ、その理解を深めることにある。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	本授業の到達目標は、日本の会計基準と国際財務報告基準(IFRS)の動向を比較しながら、説明ができるようになることである。
教科書	『IFRS 会計学基本テキスト』 中央経済社
特記	
授業計画	1 ガイダンス及び国際財務報告基準(IFRS)の学修意義
	2 国際財務報告基準(IFRS)の基礎知識①(組織と構成)
	3 国際財務報告基準(IFRS)の基礎知識②(主な特徴)
	4 国際財務報告基準(IFRS)の基礎知識③(原則主義)
	5 国際財務報告基準(IFRS)の基礎知識④(概念フレームワーク)
	6 国際財務報告基準(IFRS)の基礎知識⑤(公正価値と現在価値の概念)
	7 国際財務報告基準(IFRS)の基礎知識⑥(IFRS に基づく財務諸表)
	8 国際財務報告基準(IFRS)の概要①(会計方針、会計上の見積りの変更と誤謬)
	9 国際財務報告基準(IFRS)の概要②(収益)
	10 国際財務報告基準(IFRS)の概要③(棚卸資産)
	11 国際財務報告基準(IFRS)の概要④(有形固定資産)
	12 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑤(無形資産)
	13 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑥(減損)
	14 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑦(売却目的で保有する非流動資産)
	15 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑧(リース)
	16 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑨(引当金、偶発負債・資産)
	17 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑩(従業員給付、ストックオプション)
	18 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑪(金融商品)
	19 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑫(法人所得税)
	20 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑬(企業結合)
	21 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑭(連結・持分法)
	22 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑮(外貨換算)
	23 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑯(関連当事者についての開示)
	24 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑰(セグメント情報)
	25 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑱(1株当たり利益)
	26 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑲(後発事象)
	27 国際財務報告基準(IFRS)の概要⑳(期中財務報告)
	28 国際財務報告基準(IFRS)の概要㉑(IFRS 初年度適用)
	29 総括①
	30 総括②
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	コストマネジメント論
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	通年
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	4単位
授業回数	30回
授業概要	本講義の目的は、会計情報を用いた組織マネジメントの1つであるコストマネジメント手法について学修するものである。コストマネジメントは、企業のサステナビリティ（持続可能性）に貢献し、また、理論と実例が結び付いたものであることから、経営管理活動において、全てにコスト管理の手法が実行され、さらには原価情報がどのように役立っているのか検証する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	本授業の到達目標は、コストマネジメントにおける目的を理解した上で、実践的スキルとしての具体的対応手法に関する知識を身に付けることで、原価概念を用いて実例に沿った判断ができるようになることである。
教科書	『ケースブック コストマネジメント』 新世社
特記	
授業計画	1 ガイダンス及びコストマネジメントの意義
	2 設備投資の経済性評価①
	3 設備投資の経済性評価②
	4 設備投資の経済性評価③
	5 CVP 分析①
	6 CVP 分析②
	7 CVP 分析③
	8 予算管理①
	9 予算管理②
	10 予算管理③
	11 標準原価管理①
	12 標準原価管理②
	13 標準原価管理③
	14 標準原価管理④
	15 在庫管理
	16 業績評価①
	17 業績評価②
	18 業績評価③
	19 原価企画①
	20 原価企画②
	21 環境コストマネジメント・ライフサイクル・コストイング
	22 価格決定・バランス・スコアカード①
	23 バランス・スコアカード②
	24 ABC/ABM①
	25 ABC/ABM②
	26 品質コストマネジメント
	27 制約条件の理論
	28 財務情報分析①
	29 財務情報分析②
	30 総括
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	原価計算論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、財務諸表作成目的並びに経営管理目的として実施される原価計算において、原価情報等の有用性、それを活用するための知識と知見の修得を目指し、原価計算の一連の計算手続きを理解するとともに、手続きの根拠になる理論を学修することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、原価計算に係る基本用語や概念を確認・理解し、費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算の一連の手続きを理解することである。	
教科書	『ファーストステップ原価計算を学ぶ』 中央経済社	
特記		
授業計画	1	原価計算の基礎知識①(原価計算の意義と目的)
	2	原価計算の基礎知識②(製品の生産工程と原価計算)
	3	原価計算の基礎知識③(原価の本質と分類)
	4	原価計算の基礎知識④(原価計算の手続と種類)
	5	製造原価算定のための計算手続①(材料費の計算)
	6	製造原価算定のための計算手続②(労務費の計算)
	7	製造原価算定のための計算手続③(経費の計算)
	8	製造原価算定のための計算手続④(製造間接費の計算)
	9	製造原価算定のための計算手続⑤(原価の部門別計算)
	10	製造原価算定のための計算手続⑥(個別原価計算)
	11	製造原価算定のための計算手続⑦(総合原価計算)
	12	マネジメントに有用な原価計算①(標準原価計算)
	13	マネジメントに有用な原価計算②(直接原価計算)
	14	マネジメントに有用な原価計算③(CVP 分析)
	15	マネジメントに有用な原価計算④(Activity - Based Costing)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	管理会計論	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	<p>本授業の目的は、管理会計システムは、組織管理に不可欠な経済的な情報を提供する理論・技術であるところ、戦略や利益計画の作成と実行に管理会計システムを役立てることが可能である旨を理解・学修することにある。そして、管理会計を学修するにあたっては、単なる計算のための手法と捉えるのではなく、実践的に経営管理との関連性を思索しながら学修を進めていくこととする。</p>	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、管理会計の基礎的な概念や主たるツール、企業における実践的な管理会計情報の利用の仕方について、理解し、説明できるようになることである。	
教科書	『エッセンシャル管理会計』 中央経済社	
特記		
授業計画	1	管理会計の概要
	2	管理会計の意義
	3	管理会計の基礎概念
	4	意思決定アプローチの方法
	5	業績管理アプローチの方法
	6	原価管理
	7	長期経営計画
	8	設備投資計画
	9	利益計画
	10	予算管理
	11	事業部の業績管理
	12	ABC/ABM
	13	バランスト・スコアカード
	14	原価企画
	15	アメーバ経営
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	意思決定会計論
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	通年
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	2単位
授業回数	15回
授業概要	本授業の目的は、企業の将来の経営方針や財務状況に大きく影響する、非常に重要性の高い意思決定であり、研究開発や設備投資、M&A 等の多額の資金を必要とした長期的・戦略的視点が必要となる戦略的意思決定について、意思決定目的に役立つ会計情報の作り方や使い方について学修することにある。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	到達目標は、制度会計にない原価概念を理解し、各種の管理会計情報がいかなる形で、どのように利用されており、一方で、その問題点はどこにあるかを理解することである。
教科書	『管理会計・入門』 有斐閣
特記	
授業計画	1 管理会計の基礎①(管理会計のフレームワーク/管理会計の役割を考える)
	2 管理会計の基礎②(原価計算の考え方)
	3 管理会計の基礎③(利益分析のための損益分岐点分析)
	4 管理会計の基礎④(活動基準原価計算と活動基準管理/原価計算・原価低減の新技术)
	5 管理会計の基礎⑤(意思決定とコスト情報)
	6 計画のための管理会計①(企業グループ戦略のための管理会計/グループ戦略評価のための会計)
	7 計画のための管理会計②(事業戦略のための管理会計/事業戦略の策定と分析技法)
	8 計画のための管理会計③(投資意思決定のためのキャッシュフロー管理会計/意思決定のための会計)
	9 業績管理のための管理会計①(中期利益計画とバランスト・スコアカード/経営戦略の計画化)
	10 業績管理のための管理会計②(予算管理)
	11 業績管理のための管理会計③(事業部制と管理会計/分権化とコントロール・システム)
	12 バリュー・チェーンと管理会計①(製品開発のための管理会計/原価企画と関連技法)
	13 バリュー・チェーンと管理会計②(生産・物流のための管理会計/効率的な生産・物流活動を支える原価管理システム)
	14 バリュー・チェーンと管理会計③(マーケティングのための管理会計/マーケティング意思決定と会計情報)
	15 バリュー・チェーンと管理会計④(イノベーションのための管理会計)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	財務会計応用 I	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、財務会計における制度や理論、その活用方法を修得することにある。具体的には、基礎概念から個別財務諸表の基本項目について、会計基準等の知識・理解を得るだけでなく、その基盤にある考え方を学修する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、各取引における会計処理の方法について、会計用語を用いて考察し、他者に説明ができるようになることである。また、表面的な会計数値のみならず、その背後にある財務諸表の意図を読み解く力を修得することである。	
教科書	『スタンダードテキスト財務会計論I 基本論点編』 中央経済社	
特記		
授業計画	1	財務会計の基礎概念
	2	複式簿記の基本原則—記帳原理
	3	企業会計制度と会計基準
	4	資産会計総論
	5	流動資産
	6	棚卸資産
	7	固定資産(1)
	8	固定資産(2)
	9	繰延資産
	10	負債
	11	純資産
	12	収益と費用
	13	財務諸表
	14	キャッシュフロー
	15	本支店会計
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	財務会計応用Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、財務会計における制度や理論、その活用方法を修得することにある。具体的には、金融商品、デリバティブ、リース、固定資産の減損、研究開発費・ソフトウェア、退職給付、新株予約権、組織再編、税効果、連結財務諸表等の会計基準等を学修する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、各取引における会計処理の方法について、会計用語を用いて考察し、他者に説明ができるようになることである。また、表面的な会計数値のみならず、その背後にある財務諸表の意図を読み解く力を修得することである。	
教科書	『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ 応用論点編』 中央経済社	
特記		
授業計画	1	金融商品
	2	デリバティブ
	3	リース
	4	固定資産の減損
	5	研究開発費とソフトウェア
	6	退職給付
	7	新株予約権および新株予約権付社債
	8	法人税等
	9	企業結合
	10	事業分離
	11	連結財務諸表①
	12	連結財務諸表②
	13	連結財務諸表③
	14	外貨換算
	15	四半期財務諸表
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	コーディング基礎
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	通年
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	4単位
授業回数	30回
授業概要	本授業の目的は、最も広く使用されているプログラム言語であるC言語を通して、プログラミングの基礎を理解した上で、プログラミングの概念や技法の基本を修得することにある。また、重要なアルゴリズムを題材に、その構造と実現化の方法も学修する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	本授業の到達目標は、プログラム言語Cの基礎を理解し、プログラミング技法の基本を修得することであるとともに、その過程で問題を解くための手順を組み立てることができ、その手順について、各種文献等を参考にしながら、プログラムできるようになること、他のプログラム言語にも即応できるようになることである。
教科書	『新・明解C言語 入門編』 SB クリエイティブ
特記	
授業計画	1 ガイダンス／プログラミングの意義
	2 プログラムとコンパイル
	3 変数と定数
	4 演算と型①
	5 演算と型②
	6 プログラミングの流れの分岐①(if文)
	7 プログラミングの流れの分岐②(if文)
	8 プログラミングの流れの分岐③(switch文)
	9 プログラミングの流れの分岐④(switch文)
	10 プログラミングの流れの分岐⑤(do文)
	11 プログラミングの流れの分岐⑥(do文)
	12 プログラミングの流れの分岐⑦(while、for文)
	13 プログラミングの流れの分岐⑧(while、for文)
	14 プログラミングの流れの分岐⑨(多重ループ、プログラムの要素と書式)
	15 プログラミングの流れの分岐⑩(多重ループ、プログラムの要素と書式)
	16 配列①
	17 配列②(多次元配列)
	18 関数①
	19 関数②(関数の設計)
	20 関数③(関数の設計)
	21 関数④(関数の設計)
	22 基本型①
	23 基本型②
	24 各種プログラムの作成①
	25 各種プログラムの作成②
	26 各種プログラムの作成③
	27 文字列の基本
	28 文字列とポインタ
	29 ファイル処理①
	30 ファイル処理②
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	機械学習プログラミング
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	通年
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	4単位
授業回数	30回
授業概要	本授業の目的は、人工知能(AI)の開発等のプログラミング言語として広く活用され、機械学習・深層学習アルゴリズムの実装に不可欠となるPythonを用いた基本的なプログラミング技術を修得することにある。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	本授業の到達目標は、機械学習・深層学習技術についての基礎的仕組みを理解して、他者に説明できることである。
教科書	『スッキリわかるPython入門』 インプレス 『スッキリわかるPythonによる機械学習入門』 インプレス
特記	
授業計画	1 ガイダンス／PythonとAI・機械学習
	2 Pythonの基礎①(変数とデータ型)
	3 Pythonの基礎②(コレクション)
	4 Pythonの基礎③(条件分岐)
	5 Pythonの基礎④(繰り返し)
	6 Pythonの基礎⑤(関数)
	7 Pythonの基礎⑥(オブジェクト)
	8 Pythonの基礎⑦(モジュール)
	9 Pythonの可能性／Python基本文法の復習
	10 AIと機械学習
	11 機械学習に必要な基礎統計学
	12 機械学習によるデータ分析の流れ
	13 機械学習の体験
	14 教師あり学習の理解1(分類①)
	15 教師あり学習の理解2(回帰①)
	16 教師あり学習の理解3(分類②)
	17 教師あり学習の理解4(回帰②)
	18 教師あり学習の理解5(総合演習)
	19 より実践的な前処理
	20 様々な教師あり学習の理解1(回帰)
	21 様々な教師あり学習の理解2(分類)
	22 様々な予測性能評価
	23 教師なし学習1(次元の削減①)
	24 教師なし学習2(次元の削減②)
	25 教師なし学習3(クラスタリング①)
	26 教師なし学習4(クラスタリング②)
	27 総合演習1
	28 総合演習2
	29 総合演習3
	30 総括
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	データベース	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、データベースの仕組みを学修する上で必要となる関係データベースに関する基礎理論、SQL、設計理論等について理解をすることで、データベースの理論と実装を学び、基本的なデータベースの操作方法並びに活用方法について学修することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、データベースにおける基礎的理論について理解した上で、データサイエンス関連の基礎知識としてデータを科学的に捉え、使いこなすことである。	
教科書	『最新 図解でわかる データベースのすべて』 日本実業出版社	
特記		
授業計画	1	データベース概要①
	2	データベース概要②
	3	ファイル編成の基礎①
	4	ファイル編成の基礎②
	5	データベース管理システム①
	6	データベース管理システム②
	7	リレーションの概念と操作①
	8	リレーションの概念と操作②
	9	データベース言語・SQL①
	10	データベース言語・SQL②
	11	データベース言語・SQL③
	12	データベースの設計と管理①
	13	データベースの設計と管理②
	14	データベース・テクノロジー①
	15	データベース・テクノロジー②
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	プログラミング A 基礎	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、基本設計、外部設計、内部設計、プログラム設計、テスト、運用保守等の情報システムの構築に必要な知識と技術を修得することにある。具体的には、プログラム言語として、Microsoft Excelの機能の1つであるVBA(Visual Basic for Application) を学修する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、Microsoft Excel の機能の1つであるマクロについて正しく理解した上で、プログラミング言語の1つであるVBAを用いて、主要なプログラムが書けるようになることである。	
教科書	『入門！ Excel VBA クイックリファレンス』 ムイスリ出版	
特記		
授業計画	1	VBAの基礎知識①
	2	VBAの基礎知識②
	3	プログラミングの基礎①
	4	プログラミングの基礎②
	5	セルに関する操作①
	6	セルに関する操作②
	7	関数①
	8	関数②
	9	シート・ブック・印刷①
	10	シート・ブック・印刷②
	11	マクロの実行とデバッグ①
	12	マクロの実行とデバッグ②
	13	マクロの実行とデバッグ③
	14	マクロ記録の利用①
	15	マクロ記録の利用②
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	プログラミング A 応用	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、Microsoft Excelでデータベースを構築するとともに、データ分析を目的とした基本的な技法を実践的かつ具体的に例題を用いて学修することにある。具体的にはMicrosoft ExcelのデータベースファイルにVBAマクロを組み込んだ、高度なデータ分析手法を修得する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、Microsoft Excel VBAによる基本的なプログラミングができた上で、Microsoft Excel のデータベースファイルにVBAマクロを組み込むことで、高度なデータ分析ができることである。	
教科書	『例題で学ぶ Excel VBA 入門』 論創社	
特記		
授業計画	1	VBAの基礎
	2	変数の活用
	3	セル・セルの範囲の操作
	4	条件分岐
	5	繰り返し処理
	6	配列の活用
	7	ユーザ定義型(構造体)の活用
	8	副プログラム
	9	コントロールの活用
	10	システム製作実践
	11	VBAによる統計解析①
	12	VBAによる統計解析②
	13	アルゴリズム①
	14	アルゴリズム②
	15	データベース処理
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	システム開発	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、経営情報システムの特徴を理解した上で、現状を分析し、システムを再構築することでICTを利活用すべく、そのために必要となる基礎理論から、情報システムの設計や管理、インターネット・ビジネス等を学修することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、情報システムの設計と開発、管理、さらには、情報通信技術と組織コミュニケーション等の人間を中心とした情報システムについて理解することである。	
教科書	『現代経営情報論』 有斐閣	
特記		
授業計画	1	経営情報論の基礎
	2	経営情報論の基礎理論①
	3	経営情報論の基礎理論②
	4	経営情報システム観の変遷
	5	情報通信技術の進展と組織
	6	経営情報システムの設計・開発①
	7	経営情報システムの設計・開発②
	8	経営情報システムの管理①
	9	経営情報システムの管理②
	10	情報通信技術を活用したビジネス・イノベーション
	11	インターネット・ビジネス
	12	情報通信技術と組織コミュニケーション
	13	ビジネス・インテリジェンスとナレッジ・マネジメント
	14	情報通信技術と社会
	15	これからの経営情報論と情報化実践
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	プログラミング B	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、プログラム言語の中でも、とりわけ広く用いられているJAVA言語における変数・配列・条件分岐・繰り返し等の文法や役割、動作を理解し、実際に使用することで、プログラミング技術の修得をすることにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、JAVA言語の文法を理解した上で、基本的なプログラムを記述するとともに、問題に対してJAVA言語を用いた解決方法を考え、プログラムとして記述できることである。	
教科書	『やさしい Java』 SBクリエイティブ	
特記		
授業計画	1	Javaの基本
	2	変数
	3	式と演算子
	4	場合に応じた処理
	5	何度も繰り返す
	6	配列
	7	クラスの基本
	8	クラスの機能
	9	クラスの利用
	10	新しいクラス
	11	インターフェイス
	12	大規模なプログラムの開発
	13	例外と入出力処理
	14	スレッド
	15	グラフィカルなアプリケーション
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	民法 I（総則・物権）	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	4単位	
授業回数	30回	
授業概要	本授業の目的は、民法総則・物権における条文やその制度趣旨、概念、用語の意味、要件・効果等の基本的事項を確認・理解した上で、判例の見解や学説の動向等も必要に応じて検討することで、市民社会における市民相互間を規律する私法の基礎としての民法について学修することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、民法の全体構造を確認するとともに、民法総則・物権分野における制度や条文、判例、学説の見解を理解し、説明できることである。	
教科書	『民法（全）』 有斐閣	
特記		
授業計画	1	ガイダンス／民法の全体構造
	2	民法総則(権利能力、意思能力、制限行為能力)
	3	民法総則(法律行為)
	4	民法総則(意思表示①)
	5	民法総則(意思表示②)
	6	民法総則(代理①)
	7	民法総則(代理②)
	8	民法総則(代理③)
	9	民法総則(時効①)
	10	民法総則(時効②)
	11	物権(概説・種類)
	12	物権(物権法導入)
	13	物権(不動産物権変動)
	14	物権(動産物権変動)
	15	物権(所有権)
	16	物権(占有権)
	17	物権(担保物権法概説)
	18	物権(抵当権①)
	19	物権(抵当権②)
	20	物権(抵当権③)
	21	物権(抵当権④)
	22	物権(抵当権⑤)
	23	物権(抵当権⑥)
	24	物権(抵当権⑦)
	25	物権(留置権)
	26	物権(先取特権、質権)
	27	物権(非典型担保概説①)
	28	物権(非典型担保概説②)
	29	総括①
	30	総括②
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	民法Ⅱ（債権・親族相続）	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、民法債権・親族相続における条文やその制度趣旨、概念、用語の意味、要件・効果等の基本的事項を確認・理解した上で、判例の見解や学説の動向等も必要に応じて検討することで、市民社会における市民相互間を規律する私法の基礎としての民法について学修することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	本授業の到達目標は、民法の全体構造を確認するとともに、民法債権・親族相続分野における制度や条文、判例、学説の見解を理解し、説明できることである。	
教科書	『民法（全）』 有斐閣	
特記		
授業計画	1	債権の意義、内容、目的(特定物債権と種類債権、金銭債権、選択債権等)
	2	債権の効力(履行の強制、債務不履行、受領遅滞等)
	3	責任財産の保全(債権者代位権、詐害行為取消権等)
	4	多数当事者の債権関係(連帯債務、保証債務等)
	5	債権譲渡・債務引受(債権譲渡等)
	6	債権の消滅(弁済と供託、相殺、更改・免除・混同)
	7	契約総論(契約の成立、効力、解除)
	8	契約各論①(贈与、売買・交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借)
	9	契約各論②(雇用、請負、委任、寄託、組合等)
	10	不法行為①(一般の不法行為、特殊の不法行為等)
	11	不法行為②(不法行為の効果等)
	12	事務管理、不当利得
	13	親族(夫婦、親子、親権等)
	14	相続①(法定相続等)
	15	相続②(遺言処分等)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	商法総則・商行為法
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	通年
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	2単位
授業回数	15回
授業概要	<p>本授業の目的は、商法総則・商行為法の学修を通して、企業と企業取引に関する特別規定等の理解を深めるとともに、私法における一般法としての民法Ⅰ（総則・物権）、民法Ⅱ（債権・親族相続）の学修も併せて行うことで、企業や商取引を取り巻く法制度に係る知識を修得することにある。</p> <p>さらに、商法総則は、企業が市場で公正かつ透明性を持って行動するための指針を提供し、消費者や他の事業者との信頼関係を構築する上で重要な意義をも持つ。そのことから、企業は商法総則に規定する内容を正確に把握し、適切なコンプライアンスプログラムを策定並びに実施することで、リスク管理を強化し、持続可能な経営を目指すことができるという視点を理解することは重要である。</p>
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	到達目標は、会社法にも通じる商法の考え方を理解し、商法総則・商行為法における法制度や規定、解釈をする上での重要論点について、判例・通説の立場を理解できるようになることである。
教科書	『商法総則・商行為法』 有斐閣アルマ
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 商法をかたちづくる概念①(商人、商行為、企業等) 2 商法をかたちづくる概念②(営業と営業譲渡等) 3 企業活動を支える商法上の制度①(商号等) 4 企業活動を支える商法上の制度②(支配人その他の商業使用人等) 5 企業活動を支える商法上の制度③(商業登記等) 6 企業活動を支える商法上の制度④(商業帳簿等) 7 外観主義による企業活動の促進①(名板貸し等) 8 外観主義による企業活動の促進②(表見支配人等) 9 外観主義による企業活動の促進③(商業登記と外観主義等) 10 企業活動の特色と商行為法①(民法との比較等) 11 企業活動の特色と商行為法②(商事担保等) 12 企業活動の特色と商行為法③(商事売買等) 13 企業活動におけるコンプライアンス① 14 企業活動におけるコンプライアンス② 15 商法がかかげる伝統的営業(運送・倉庫取引、海運、代理・仲立・問屋、銀行取引)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	会社法	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	4単位	
授業回数	30回	
授業概要	本授業の目的は、株式会社の設立や運営の方法、また、出資者である株主や会社債権者を保護するために法規制、さらには、企業が法律や規則、倫理規範等に従って行動する等、実践のための重要な基礎的知識や理論及び法体系を学修することにある。具体的には、会社法総則、株式会社の設立、株式、新株予約権、運営面における株主総会、取締役と監査役の役割や責任、コーポレートガバナンスの仕組み等を実務と関連させながら確認することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、会社法における知識や制度の背景を体系的に理解し、他者に説明できるようになることである。	
教科書	『会社法 LEGAL QUEST』 有斐閣	
特記		
授業計画	1	総論(会社と会社法、会社法の基礎)
	2	設立①(発起設立と募集設立、設立登記)
	3	設立②(設立中の法律関係、違法な設立・会社の不成立、設立に関する責任)
	4	株式①(株式と株主)
	5	株式②(株式の譲渡、譲渡制限、権利行使の方法)
	6	株式③(特殊な株式保有の形態、投資単位の調整)
	7	機関①(機関総説、株主総会)
	8	機関②(取締役会設置会社)
	9	機関③(指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社)
	10	機関④(非取締役会設置会社、役員等の義務と責任①)
	11	機関⑤(役員等の義務と責任②)
	12	機関⑥(コーポレートガバナンスの枠組みとコンプライアンス)
	13	機関⑦(内部統制システムとコンプライアンス)
	14	計算①(会計と開示、剰余金の配当)
	15	計算②(自己株式、損失の処理、会社債権者の保護)
	16	資金調達①(募集株式の発行)
	17	資金調達②(新株予約権、社債)
	18	定款、解散・清算(清算の開始、清算手続等)
	19	企業の買収・結合・再編①(株式の取得による買収)
	20	企業の買収・結合・再編②(組織再編の意義と手続)
	21	企業の買収・結合・再編③(組織再編無効の訴え)
	22	企業の買収・結合・再編④(事業の譲渡等)
	23	企業の買収・結合・再編⑤(敵対的買収と防衛策)
	24	企業グループ(親会社と子会社)
	25	企業形態の選択と持分会社、組織変更
	26	国際会社法(抵触法と実質法、外国会社)
	27	総復習①(設立)
	28	総復習②(株式)
	29	総復習③(機関)
	30	総復習④(その他)
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	租税法 I
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	通年
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	2単位
授業回数	15回
授業概要	本授業の目的は、租税の意義や主たる税目の概観等の体系的かつ基本的事項を学修することで、租税法学の基礎的な思考を身に付けることにある。また、租税法の性質として、経営、経済、会計等の領域にも通じる学問であることから、実務における対応能力を修得することも目的としている。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	到達目標は、租税法の考え方・基本的しくみを理解することが目標である。
教科書	『租税法』 弘文堂
特記	
授業計画	1 租税の意義(現代国家と租税、租税の意義と種類、租税の根拠)
	2 租税法の意義と特質(租税法の意義と範囲、租税法の特色、租税法の位置)
	3 わが国における租税制度の発達(序説、第二次世界大戦前における発達、第二次世界大戦後における発達)
	4 租税法の基本原則(租税法律主義、租税公平主義、自主財政主義)
	5 租税法の法源と効力(租税法の法源、租税法の効力(適用範囲))／租税法の解釈と適用(租税法の解釈、租税法の適用)
	6 租税実体法(租税実体法の意義、租税法上の諸義務)
	7 課税要件総論(納税義務者、課税物件、課税物件の帰属、課税標準、税率)
	8 課税要件各論(所得課税、相続税および贈与税、地価税、固定資産税、消費税、流通税)
	9 納税義務の成立・承継および消滅(納税義務の成立、承継、消滅、附帯税、納税者の債権(還付請求権))
	10 租税手続法(意義、租税行政組織と租税職員の守秘義務、租税確定手続、確定の方式、申告納税方式、賦課課税方式、確定権の除斥期間、質問検査権(税務調査))
	11 租税徴収手続①(納付と徴収)
	12 租税徴収手続②(滞納処分)
	13 租税争訟法(租税不服申立、再調査の請求)
	14 租税処罰法(租税罰則法、租税犯則調査および通告処分)
	15 総復習
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	租税法Ⅱ	
実務家教員		
学部・学科	情報ビジネス学科	
履修年次	2年次	
開講区分	通年	
科目区分	選択	
授業方法	講義及び演習	
単位数	2単位	
授業回数	15回	
授業概要	本授業の目的は、法人税法における基礎概念や概要、課税上の諸問題等について、実務を遂行していく上で必要となる知識や仕組みを法律の観点から学修することにある。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	到達目標は、法人税法における基礎概念や知識を修得し、実務の視点で思考・理解できるようになることである。	
教科書	『分かりやすい「法人税法」の教科書』 光文社	
特記		
授業計画	1	法人税は、どのような税金なのか、法人税は株主に対する税金か、法人自体に対する税金か
	2	法人は単体で納税すべきか、グループで納税すべきか
	3	学校法人や宗教法人はなぜ課税されないのか
	4	法人の所得は「益金－損益」で計算されるのか
	5	法人税の申告と納付
	6	時価より低い価額で資産を譲渡すると課税されるのか
	7	違法な支出も控除できるのか、高額な役員給与・退職給与は認められないのか
	8	値下げの場面、回収ができない場面
	9	接待飲食費は非課税になるのか
	10	今期の赤字はあとで使えるのか
	11	工事完成前でも代金を計上しないといけないのか
	12	債務が確定しないと費用は控除できないのか
	13	法人税の税率は、法人ごとに違うのか
	14	法人税額からさらに控除できるものがあるのか
	15	税務調査・行政不服申立て・税務訴訟
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価	
備考		

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	行政法総論
実務家教員	
学部・学科	情報ビジネス学科
履修年次	2年次
開講区分	通年
科目区分	選択
授業方法	講義及び演習
単位数	2単位
授業回数	15回
授業概要	本授業の目的は、行政法における「法律による行政の原理」等の基本的な原理を理解しつつ、行政行為や行政指導、行政計画、行政契約等の行政の形式に関する概念及び法的規律性について学修をするとともに、情報公開法や行政手続法等に関する法律的枠組みや制度背景を学修することにある。また、行政法は企業が遵守すべき重要な法律の枠組みを提供し、法的リスクの管理において中心的な役割を果たすことから、企業が事業活動を適正に行うためにも、行政法関連法規等の解釈について、判例を題材に理解をすることを目的にする。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	本授業の到達目標は、各種原理や行政活動に係る概念、関連法について理解し、説明できるようになることである。
教科書	『行政法概説 I 行政法総論』 有斐閣
特記	
授業計画	1 行政法の基礎(全体構造、意義、特徴、法源、効力)
	2 法律による行政の原理、行政法の一般原則、民事法との関係
	3 行政情報の収集・管理・利用(行政情報の収集、管理と行政的利用、公開)
	4 行政上の義務履行強制
	5 行政上の義務違反に対する制裁
	6 行政基準
	7 行政計画
	8 行政行為
	9 行政指導、行政契約
	10 行政手続法
	11 行政手続法に関するその他の問題
	12 個別行政法規と判例①(環境行政)
	13 個別行政法規と判例②(給付行政)
	14 個別行政法規と判例③(規制行政)
	15 総括
成績評価方法 (試験実施方法)	授業内試験を軸に、授業への参加姿勢を含み総合的に評価
備考	